



梅光

題字は初代院長 広津藤吉先生

第50号

2018年(平成30年)6月20日発行

梅光学院同窓会

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1

TEL/FAX 083-227-1111

編集発行人 片山 宣子

同窓会 E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

<http://baiko-dousoukai.jp/>

印刷 (株) 三和印刷社

〒752-0927 下関市長府扇町9-1



掃除風景



登校風景



高1入学式クラス写真



〈同窓会事務局開室〉

毎週火・金 13:00～16:00

TEL 083-227-1111

E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

ホームページ

梅光学院同窓会

PC. スマートフォン対応

みことば(30) 清田 勝成牧師 2	卒業生は現在 10
会長挨拶 片山 宣子 3	コール梅光クリスマス礼拝... 13
第17回梅光メモリアルデイ	第33回ソフトボール部OG会報告 ... 14
三輪 従道 5	支部だより 14
追悼文	同期会だより 18
宝木先生 橋本るつ子・和田弘美	2018年度総会報告..... 19
安森先生 武原 弘・今泉紀恵	講演 21
満嶋先生 林 久代・鶴原詠子	2019年度総会おしらせ..... 24
佐藤先生の思い出..... 9	



「みことば」

〈30〉

清田 勝成

(長府教会牧師)

『恐れるな』 エレミヤ書一・四〇



發揮させて、神の意志を人々に伝え、実現させるためであった。

「主の言葉がわたしに臨んだ。『私はあなたを母の胎内に造る前からあなたを知っていた。母の胎から生れる前に私はあなたを聖別し、諸国民の預言者として立てた。：私はあなたの口に私の言葉を授け、：諸国民、諸王国に対する権威をゆだねる』」。

エレミヤは内気で臆病者であったが、それ以上に存在の低い人であった。「ああ、わが主なる神よ、わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者に過ぎません」と言って神の召しを拒否した。諸国民、諸王国の権力に対する神の権威を行使することは余りにも荷が重すぎたからである。彼が自分の無力さを言い訳にして神の決定を拒むとき、彼の心の奥底に神への反逆が隠れていた。「エレミヤは己れの無に拘泥しているとき、彼は真に無でないことを示している」と学者は指摘する。二〇章で「主よ、あなたが私を惑わし、私は惑わされて、笑う者にされました」と告白している。エレミヤにとっては、主

と共に生きることは、恥辱に耐えることであった。彼は嘆きのたびに、主の召し出した神の言葉を思い起した。「恐れるな。私はあなたと共にいて、必ず救い出す」。「諸国民、諸王国」と対峙する政治的主体と抵抗の思想を構築するためには、まず自分自身に専念し、倫理的主体としての自己を構築する必要がある。預言者としての重荷に耐えるには、ひたすら神の言葉によって、自分の弱さを克服して自己の主体性を形成しなければならぬ。

私たちの暮らしはひと昔前と違って随分便利になり、多様な欲望を満たすことができるが、反面、人生の多くのことが自明でなくなったことに気づき、気落ちしている。複雑にされた時代であって、人間関係が希薄になり、心が狭くなり、将来的な喜びに安住しようとしていく。しかし自らの破れと孤独と限界と偶然の中で「生と死」を真剣に見つめ、「私たちは何をもって自分の存在を支えているのか。私たちは、本当は何を待ち望み、何を恐れているのか」と問うとき、人生のアポリア(困難・難問)に遭遇する。私たちの恐れと不安は、私たちにとって想定外なことが神にとっても想定外であり、神も悪の力に勝てないと諦める所にあるのではないか。神との関係が、私的な領域に限定され、私たちの問題の解決の助けにならなくなっているのではない。更には「御言葉の飢饉」がこの時代に蔓延しているのではないか、と私たちは危惧している。しかしすべては神の知と意志の





会長挨拶
片山 宣子

平成30年度総会が5月12日(土曜日)に行われました。私は会則改正後の初めての会長として信任を受けました。新会則では任期2年となります。宜しく願います。

もとにある。人間の罪と時代の混乱は私たちがつくり出したものであるが、同時にそれは神の摂理であり、神の意図することではないのか。「神はすべてを知り給う。非存在的なものも、可能なものも不可能なものも、悪しきものも、死と地獄も、すべてをそれぞれの仕方て神は知り給う。それらのものはすべて有限なものとして存在する。それ故に、神にとつて隠れたものは何も存在しない」(カール・バルト)。すべては、神のご計画のもとにあり、神の知ることと意志することの中にあつて、私たちは保護され、未来へと導かれていく。私たちは破滅に向かつて歩んでいくのではなく、神の希望に向かつて歩んでいる。それが神のメッセージである。にもかかわらず、私たちが恐れるが消えないのは、余りも現実の重さが耐えがたいからである。

「諸国民、諸王国」に対する恐れにまさる神の言葉への信仰と、主に選ばれ、支えられていることへの信頼と感謝がなければ、私たちの不安は軽減されず、未来は依然として暗く不透明なままである。いま私たちは、どのようにして自分の心と生活を立て直し、まことの明るさと知性を取り戻すことができるか、と問うとき、「恐れるな。私はあなたと共にいて、必ず救い出す」という御言葉が私たちに気力を奮い起させるであろう。昔いまし、今いまし、将来もいまし給う「全能なる神」の御言葉に励まされて、主の召しに従う自らの主体性を発揮したく思う。神の言葉は未来を約束し、希望を指し示す。主にある熱き志を持ち続けて、前のものに向かつて体を伸ばしつつ歩み続けたいと思う。

さて、この度の総会で報告決議しましたことをお伝えします。

29年度の報告

制服変更問題について

第49号同窓会誌でお知らせいたしました「制服変更」については、500名余の会員の皆様から様々な意見を頂きました。結果としては、今年度入学生から新しいブレザータイプの制服に変更されました。新しい梅光学院中学校・高等学校へのイメージ一新を打ち出す改革の為どの学院の判断でした。セーラー服に深い愛着と誇りを持つ中高出身者にとつては大変残念なことでした。

た。しかし新制服を梅光の制服だと喜んで着用している在校生も私たち同窓生の後輩であることを受け入れる広い心も今求められています。改めて会長としての力不足をお詫びし、皆様にお願ひする次第です。

魅力があるということでしょう。変更の現実を受け入れながら、誇りを持ち続けていきましょう。

理事選出の件

同窓会では、写真集を渦中にあつた在校生へ贈ることを役員会で決定し、中高共に3年生には卒業記念として贈呈できました。1・2年生にはまだ完了できていません(3月の終業式までにはすべて贈呈したいと申し出ましたが、生徒を動揺させると学院から不許可になり、2年がかりで卒業記念品にという提案でした)。引き続き努力いたします。また長年ミッシェンスタイルの教育に協力いただいた地元教会などにも感謝を込めてお送りいたしました。

513名から要望書が理事会メンバーの濱谷静枝(30年3月まで任期満了)様宛に届き、それをもとに要望を出しました。結果は、私学法上は「卒業生」であり、同窓会役員



充て職と考えるのはおかしいと否決されました。

現在、理事会には卒業生4名(大学卒3・高校卒1。このうち学院教職員3、外部者1)は含まれています。「同窓会が推薦する4名」という条文には適合していません。

今年度(30年度)からの変更

会費徴収と会員名簿作成のための卒業生の情報についての件の変更が学院から伝えられました。個人情報管理の問題・税理士からのコンプライアンスの問題指摘を受けての変更であるという説明でした。また同窓会の自立の必要性も指摘されました。

中・高・大の今年度入学生から同窓会自身が会費の納入を促し徴収することになり、従来のように学院が代理徴収することは中止になりました。会員名簿の原簿となる氏名や住所についても、この3月に卒業した生徒・学生から、同窓会事務局スタッフが向いて入会承諾と共に提供してもらうようになりました。

このような変更から、同窓会自体が在學生にアピールす

る方法をさまざまに考えていく必要が生じていることを報告します。

今、同窓会に求められ急務となることは、同窓会が自立し活動できる組織になることです。総会において意思決定をし、組織としての力を強めていく必要があります。私はその為、支部活動の活性化が急務と思います。また同期やクラブ・サークル活動などで同窓生同士がつながりを作ってほしいのです。SNSでグループを作るのもいいと思います。そしてそれを同窓会事務局に知らせて下さい。

メモリアルデーについて

今年は大学新校舎建設工事の為、例年のようにスタージェスホールでの実施ができません。丸山の校舎も授業のためお借りすることができません。メモリアルデーは、梅光に連なる方々を追悼する礼拝、言ってみれば最も梅光らしい行事ですが、今年も学外で実施することになります。この会誌に詳細が出ています。旧教職員・同窓生で逝去された方の写真なども当日飾ることもで

きます。梅光学院の歴史を紡いだ方々を一緒に追悼いたしましよ。平服参加。どなたでも参加できます。勿論無料です。

佐藤京先生の遺作絵画について
昨年、故佐藤泰正先生の奥様、京先生も逝去され、ご自宅だった文教台の家を学院にお返しになるということで遺品の整理を手伝いました。京先生は美術教師として梅光にお勤めでした。遺作である多くの絵を同窓会でお預かりしています。100号大の大型の絵です。病院やその他の施設など、絵を飾って下さる所を探しております。何か情報がありましたらお知らせください。

佐藤京先生の遺作絵画について

5月末より会員名簿申込者に、新名簿が届いていることだと思えます。

会員名簿発行について

名簿作成は、同窓会という組織が、法的にも自立している組織であることを表現し、会を守るためにも必要であるという、法律家のアドバイスから実施しました。ご協力ありがとうございました。名簿

会員名簿発行について

次に今回の総会で、新会長として皆様に提議いたしましたことは2点ありました。1つは否決され、来年度、具体的な詰めをして、再度提議することになりました。

賛同を得られたこと

同窓会出版物として「梅光の遠望」戦前・戦後編があります。梅光での思い出を語る文章を編集したものです。そこには梅光学院の教育の本質が自ずと現れています。

の購入希望がありましたら同窓会事務局にお知らせください。一冊四千円です。

現在、大学・中学校・高等学校共に新しい教育方針や変革が語られ、「改革」が進んでいます。時代の変化に対応する為ということですが、私はここで昭和の後半から平成にかけての卒業生にも梅光を語っていただき、それをまとめ、梅光教育の証とする必要があると考えます。変化の中、歴史を書き留める必要を痛感しているのです。予算を組み、取り掛かります。宜しくご協力ください。

賛同を得られたこと

そこで、2019・2020年の2年間で上限100万円の寄付を提議としてあげました。使い道は学生・教職員が必要とする備品を購入する。品物については同窓会役員会が学院の要請を検討して決定する。同窓会の寄贈であることを明確にする。一年前に提議するのは準備期間の為である。

以上のように提議し、賛同を求めました。①備品を具体的に示す必要がある。②卒業生の代表である会長の理事会への参加が認められていない。③これまでの署名など、卒業生や在學生、保護者などの問いにきちんと答えていない。等の理由で、今の時点では賛同できないと否決となりました。

「否決され、来年度の課題になったこと」

大学新学舎「北館」の工事が始まりました。31年3月竣工の予定と聞いています。

同窓会の記録を調べますと、過去には、このような時、同窓会から寄付金を出していません。金額は一定ではありません。同窓会会則にも学院の支援が目的の一つとして明記されています。

そこで、2019・2020年の2年間で上限100万円の寄付を提議としてあげました。使い道は学生・教職員が必要とする備品を購入する。品物については同窓会役員会が学院の要請を検討して決定する。同窓会の寄贈であることを明確にする。一年前に提議するのは準備期間の為である。

以上のように提議し、賛同を求めました。①備品を具体的に示す必要がある。②卒業生の代表である会長の理事会への参加が認められていない。③これまでの署名など、卒業生や在學生、保護者などの問いにきちんと答えていない。等の理由で、今の時点では賛同できないと否決となりました。

以上の理由で、今の時点では賛同できないと否決となりました。



た。来年度に向けての課題となりまして。

この時、学院執行部(理事長・学院長など)と直接向かい合い、説明を聞き、話し合いの機会を持ちたいという意見が出されました。総会に参加されていた樋口紀子学院長から理事長と相談するという回答がありました。

中学13名、高校50名、大学346名の入学者と聞くと、学院の運営の難しさも考えます。い

ろいろ困難なこともございますが、これからも一つひとつのことに対処しながら同窓生の絆を強めるために努力してまいります。皆様の変わらぬご支援と運営費協力をお願いいたします。

追記・樋口学院長より、対話集会開催の予定はないと5月役員会で回答がありました。詳細を文章でお願いしましたが、実現できませんでした。

第十七回梅光メモリアルデイ

「恵みの記憶」
—メモリアルデイに寄せて—

三輪 従道 (元下関教会牧師)



エフエソ書が書かれた原始教会誕生の頃、ローマ帝国内

まあって来る様々な民族や文化や言語の異なる人々が一つになつてゆく事は殆んど不可能と言つても良かったのではな

ところパウロは、「だから

心に留めておきなさい。」(エフエソ2・11)以下に、異質な者が共に生きる事が出来る驚くべき可能性を提示しました。その心に留めるべき記憶は、単に懐かしい良き思い出ではなく、人がそれによって立ち帰つてゆくべき原点でした。その記憶は二重構造を持つていて、一方の側面は、「この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました」

(同2・11)とあるように、神の心も知らずに生き、老いと死を前になすすべもなかった自らの人としての悲惨を心に留めるといふ事です。もう一方の側面は、そのような自分が、何の故あつてかキリストに出会い、キリストによってどこまでも私の悲惨に連帯し、救済を放棄し給わない神の愛に委ね、その恵みの記憶を日々新たにしつつ生きるといふ事です。そうではなく、自らの民族や出自、功績や地位等を記憶の中心に置く時、人との交わりは破壊されてしま

うのです。何と容赦のない徹底した勧めでしょうか。この事は、選民を自認して

いたユダヤ人にとっては、異質な人を見下す高ぶりの中でいつしかその思いの中から締め出していた彼らの「恵みの記憶」を取り戻せば良かったのです。

そもそもユダヤ人は、本当に世界でも類を見ない人々ですが、その信仰告白の中で必ず自分たちの先祖が奴隷であつた事を子供達に自覚させて来ました。一体どこに自分達の先祖が奴隷であつたと自らを貶める伝承を心に留め続けるような民族があるでしょうか。それはあまりにも圧倒的な神の恵みを知つたからで

す。彼らは、その消息を次のように記しています。「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かつたからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であつた。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに—エジプトの王ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」(申命記7:6・8)と。

この恵みの事をパウロは、十字架によつて敵意を滅ぼし二つの者を一人の新しい人になり造りかえるキリストの平和と呼んでいきます。それは神の前

—ご案内—

第18回 梅光メモリアルデイ

2018年7月4日(木)
時間 14:30~16:00
場所 生涯学習プラザ 宙のホール (2F)
お話し 「忘れ得ぬ人々」
聖書 コリント人への第一の手紙 13章 4~13
平良 美代 (高5)

合唱 コール梅光
指揮 澄川 孝子 (高23)
伴奏 田村 初音 (高61)

※写真を掲げる場所を設けます。
(旧教職員、卒業生など梅光学院にかかわられた方々の遺影をご持参下さい。)
*平服でお越し下さい。



に真に低くされた人々の間で互いに仕え合う心が生きて働く中で「あなたなしに私はな

またお会いしましょう、宝木先生!

橋本 るつ子
(元中高音楽教諭)



宝木多加志先生

大好きな梅光学院中学校高等学校での31年間の勤めを終え、母の待つ近江八幡へ帰ってきて4年目の6月終わり、突然、宝木先生の訃報を受けました。毎年、世界中を旅された時の写真入り年賀状を送って下さっていたので、とっさに信じがたく、驚きでいっぱいでした。いろいろな思い出が走馬燈のように浮かび、先生の教えを受けたお弟子さん達がどんなにお悲しみかと思いを馳せておりました。

宝木先生とは梅光の音楽科教師として共に働かせていただいただけでなく、音楽について多くご教授していただきました。特にピアノに関してはとても厳しく、テクニクはもろろん、音色、解釈、感情移入など、妥協なさらず、高校生に対しても高レベルのことを要求されました。そのため生徒達は先生の教えについて行くために日々練習に励み、努力し続けていました。ある生徒の事が忘れられませんでした。わたしが旧東館五階ホールを直の仕事を回っていた時、薄暗い明かりの下、宝木先生の生徒がひとり、ピアノに向かってただ一音をずっと弾いていました。寮生だったその生徒に、「何の練習をしているの?」とたずねると、「わた

たしの欲しい音色になるには、どのタッチが一番良いのか探していました。自分の要求している音色を感じる聴力、そしてそのためにいろいろなタッチを試しながら近づこうとする熱心さ、その生徒の音色はとても美しく、特にモーツァルトはとてすばらしかったです。そういう生徒を指導されたのが、宝木先生でした。時には厳しくそこまで言われなくても・・・とはらはらすることもありました。先生の音楽に対する姿勢は、私が考えるような緩いものではなく、作曲家の意図することをしっかりとつかみ、それを的確に表現する大切さ、そのために必要なテクニク、聴力、心、理解力はどれ一つ欠けてはならないし、日々練習に励まなければならぬと言っておられました。また、本物を聴くことの大切さを強調され、デビュー前の横山幸雄先生をご紹介下さり、そのシヨパンの演奏のすばらしさに生徒も教師も堪能させていただきました。本当に音楽の深さ、すばらしさを教えて下さった、私

にとっても良き師でした。この原稿を書いている最中、満嶋先生の訃報が入ってきました。驚きです。なぜこんなに早く?と神さまに問いたくなり、また、いろいろな想いがあります。しかし、今生かされている私たちがすべきことは、先生方の音楽への思いを引き継ぎ、今置かれているところで日々真摯に音楽に向かい、努力しそのすばらしさを伝えていくことではないかと思えます。先生、有り難うございました。大好きな音楽家達に囲まれて、思いっきりピアノを弾いて下さい。

宝木多加志先生を偲んで

和田 弘 美
(高31音3)

宝木多加志先生との突然のお別れは、昨年6月30日でした。その5日前にコンクールの審査で広島へ行かれ、2日間にわたって200人以上の審査をされて、帰られてから体調を崩されてしまいました。常日頃から健康にはとても

気を付けておられましたので、必ず、お元氣になられると信じておりましたのに、生涯現役のまま天に召され残念で言葉になりません。先生は、北九州音楽文化連盟の会長であり、全日本ピアノ指導者協会参与、梅光学院大学教授等を歴任され、数々の功績を認められております。平成19年3月には文部科学大臣から表彰され、ホテルで賑々しく祝賀会が行なわれました。当日は政界の方々や著



故宝木多加志先生 献花の会
於・ウェル戸畑
平成29年8月25日



名ピアノリスト横山幸雄氏、全国各地から門下生が集い、こやかに笑みを浮べていらした先生のお顔が忘れられません。育てられた弟子は数百名を越え、中には国内外で活躍している演奏家や教育者が多くおられます。先生の肩書は勿論ですが、音楽に対する知識、真摯なレッスンは、楽しいお話と共に、とても魅力的でした。

高校生の頃とても未熟だった私は、いつも厳しいレッスンに震える思いでした。でもある日先生が「親以外に誰がこんなに本気で言ってくれる人がいるの？」と仰って「なるほど、本当にそうだ！」と思ひ、それからはより一層先生と気持ちの繋がるレッスンが受けられるようになった気がします。また、私の生徒がコンクールで実績を上げるとご自分の事のように喜んで下さる先生でした。私は厳しくもお優しい先生との出会いがあったからこそ今の私があると思っています。

音楽を心から愛されていた先生に恥ずかしくないように、微力ですが後に続く方たちに

伝えていきたいと思ひます。年齢80歳の生涯を閉じられた先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

畏友安森敏隆兄を偲ぶ

武原 弘
(元短期大学教授)



安森敏隆先生

敬愛する安森敏隆兄が天に

召されたと聞いた時、私は大変驚いた。急ぎ新聞の訃報欄で確かめて、ようやく心静めることが出来た。今はただ心から深く哀悼し、主のみ許で永遠の安らぎにある兄のみ霊に祈りを捧げるばかりである。

学兄を偲んで私の追憶は、遠く四十余年前の頃に遡る。兄は一九七六年(昭51)から八八年(昭63)にかけて、現学院大学の前身梅光女学院大学に在任し、教育・研究の

業に熱心に勤んだ。同短期大 学部にも所属していた私とは、同じ日本文学科で互いに親交を深くし、切磋琢磨する良き僚友であった。

兄はいかにも自由闊達、明朗で積極的な人柄が先ず印象に深い。声も大きく、講義でも職掌の仕事でも、いつも活気に満ちて励んでいた。同時に勝れて精確緻密な思考、濃やかにして豊かな感性の持ち主でもあった。そのことは、当時はやく出版された著書「斎藤茂吉幻想論」や本学「公開講座論集」中の「塚本邦雄短歌論」等にも如実に表われていると言ふべく、門外漢の私にも読まれるのである。

兄は、他方、短歌実作にも情熱を注いでいた。「僕は、研究者と呼ばれるより、歌人と呼ばれたい」と、私どもに呟いていた。その望みは当時既に叶えられていたのであるが、その頃、朝日新聞の連載コラム大岡信氏「折々のうた」に兄の歌が選ばれ、氏の短評と共に掲載された(昭52・10・12付)。当然のこと、兄はそのことを心底喜んでた。

兄は住まいを市内勝山町に

移して間もなく、近隣の高齢の方々を勝山公民館に招いて、公民館短歌会を開いていた。「なに、お年寄りの話し相手になって上げていただけだよ」と兄は謙遜していたが、実は中身の濃い、充実した会であったろうことは確かである。後年のNHK番組「介護百一首」(二〇〇四年開始)の源泉は、その勝山短歌会であったろうか。兄は番組第一回目から選評者の一人として活躍している。

兄と私は同郷出身の誼もあって、宵の唐戸でグラスを傾けたことがあった。そこでも話題は専ら短歌のこと。私も趣味で腰折れを詠んでいると話すと、作歌数を訊かれたので、全部で百首くらいと答えると、「君ねえ、習作が千首を超えて初めて歌作り云々が口に出来るんだよ」と兄。啞然として、私は一言もなかった。

思い出は尽きないが、最後に兄自身忘れ得ぬ、記念すべき歌(前記「折々のうた」入選の詠)をここに記させていただきます。兄の喜びを私も共に分かち合う者とさせて貰いたい。寛大な兄だから、私のこ

のような摺筆を許してくれると信じて。

妻は今夕べの鏡に入りゆけり 髪かきあげて何のぞきたる

安森敏隆先生の思い出

今泉紀恵(旧姓 光安)
(大日16・院日11)

昨年、同窓会東京支部の学 年当番幹事を務めた際、ぜひとも安森先生のご臨席を賜りたくお手紙をさし上げた。残念ながら、理事をなさっている短歌学会と日程が重なり、ご出席は叶わなかった。だが、ご丁寧なお手紙をいただいた。それには今も親交がある先生方の連絡先が記され、同窓会の成功を祈るお言葉と励ましが添えられていた。おかげで私どもは懐しい先生方との再会を果たし、懇親会も百三十名もの同窓生で盛況だった。安森先生の細やかな心遣いと優しさは、まさにそういうところだと思ふ。私が在学していた当時、安森先生は学生部長でいらっしやったが、あの頃も学生の気持ちを寛容に汲

頃も学生の気持ちを寛容に汲



み取ってくださる大らかな先生だった。変わらない先生の月日がぎゅっと縮まった思いだった。私は何度もそのお便りを読み返しては、迷路のような独特の筆跡を指でなぞりながら、学生時代を懐しく思いおこした。まさかそれが最期の手紙になろうとはどうして思えたらう。次年度の同窓会ご臨席を信じ、その日を心待ちにしていただけに、先生の訃報はあまりにも悲しく愕然とした。

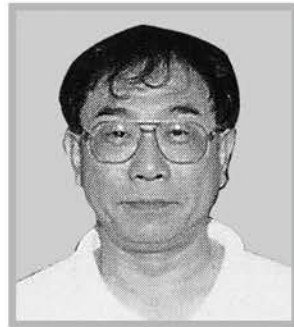
とも不思議な話だった。見えている人の中から見えない人の姿を見る、前を向いているが意識は後ろにあるといった主体と客体が入れ替わった見方を初めて知った。もしかしたら近代文学や短歌を読み解くカギは、こうという感性なのだろうか。複眼的に、多角的にとらえるということをするとき学んだ。

また夏休みには、短歌二十首を作る宿題が出され、その一首一首に付けられた〇・×に一喜一憂し、添削のひとつ言も有難い思い出だ。

先生は梅ヶ崎キャンパス内(六角堂辺り)で、同僚の先生方とよくソフトボールやキャッチボールを楽しまれていた。安森先生の球は速いそう。江夏豊投手の話もよく覚えていて。三十一文字に魂を込めた先生の剛速球をこれからもたくさん投げしてほしい。ほんとうにありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

満嶋先生の思い出

林 久代
(中高音楽教諭)



満嶋 良先生

「ゆで卵と卵焼きはどっちが好き？」

先生に何度も聞かれました。先生の答えは「僕はゆで卵。卵を食べている気がするから。」愛妻弁当にはいつもつるんとむかれた、白い丸ごとゆで卵が入っていました。

好きな讃美歌は56番。「主よいのちのパンをさき あたえたまえわれらに 祈りもとむひたすら 主のいのちのみことば」

礼拝の司会をされる時はいつも「パンの讃美歌」これが満嶋先生の代名詞でした。

礼拝のお話でよく覚えているのは、「長いお祈りは好きじゃない」エピソードです。

クリスマスチャンホームで育った先生は、牧師であるお父様の食前のお祈りが長くて長くて、美味しそうな食事を前にしてとても辛かったというお話。そのせいでお祈りが大嫌いななってしまい、奥様のお宅を初めて訪問した夕食会でのお祈りの時、出てきた言葉は「いただきます」だったというエピソードです。

社会科の坂本先生が、こんな思い出話をしてくださいました。満嶋先生宅での食事会に招かれた時の衝撃的なシーン。まず振る舞われたのは、大皿に盛られた何十枚ものトンカツであったこと。奥様はさぞかし毎日大変だったことでしょう。

こんな素敵なエピソードも聞きました。クリスマス前の一ヶ月は、毎日ジュースを我慢して、クリスマス献金の用意をされていたこと。そして、クリスマスイブには、遠いご親戚や知り合い宅にまで、電話でキャロリングをお届けされていたこと。家族全員でハモって。仲良し家族でいらしたことがうかがえます。

私達卒業生の中ではいつも

温かくて、大きくて、優しく、ほっこりできて、安心できる大好きなゆるきやらのような存在でした。

でも、先生の名誉のために：オルガンを即興で弾かれるカッコいいお姿も、ハレルヤコーラスや讃美歌を楽しくご指導下さったお姿もしっかり目に焼きついています。

生徒の皆に愛され続けた満嶋先生。いつまでも生徒達が優しい心で満たされ、安心してきる学校であるように見守ってください。

満嶋先生の思い出

鶴原 詠子(旧姓 川本)

1995年高校音楽科卒業
(高47音19)

「音楽は続けても続けなくてもいいから、とにかく幸せになってください」

これは卒業の日に、満嶋先生が私たちへ贈ってくださいった言葉です。

つらい時や自分を見失いそうになった時にいつも思い出しては、

「大丈夫、何があってもどんな自分であって見守ってくれ



る人がいる」と心強く思え、前を向くことができました。

音楽科だけの21名の独立クラスとなつてから卒業までの2年間、満嶋先生は私たちの担任を受け持ってくださいました。コーヒーとたばこが大好きで、ぼっこりしたお腹と茶目っ気たっぷりの笑い方が印象的な、何かにつけいつも朗らかに気遣ってくださいました。昔話や冗談、真面目な音楽談義まで話題も豊富で、先生流の練習方法や指の体操、一人暮らしのアドバイスやリラククス法に至るまで何でも伝授してくださいました。

音楽に関しては妥協を許してくださいさらず、休み時間には練習を聴いてくださったり楽曲の分析をしてくださったりと、厳しく根気よくとことん付き合ってくださいました。

また、礼拝ではその日の讃

美歌を主題とした先生の即興でのオルガン演奏で始まり、その奏楽に込められた深く真剣な折りを聴く中で、学院生活の在り方を窺い知ることができました。

3、4年ほど前にお電話した際に体調が芳しくないことをお聞きしましたが、ご自宅で養生しながら奥様と毎日散歩をなさっていることなどをお話くださり、お声も昔とお変わりなかったのが安心しておりました。突然の召天の報に接し、驚きと悲しみでいっぱいです。

個性豊かで奔放な女子高生相手にならご苦労もされたのではないかと思います。喜びの時は私たち以上に喜び、悲しい時は一緒に肩を落としたり、いつもしっかりと目を見て励ましてくださるみんなの「お父さん」のような存在だった先生。

有意義な学院生活とその後一人ひとりの幸せを心より祈ってください、大変幸せであったと感謝しています。満嶋先生、どうぞ安らかにお休みください。

佐藤先生の思い出

佐藤京先生は泰正先生がお亡くなりになられた2年後の2017年12月5日にご逝去されました。



若き日の泰正先生 中学校長室にて



宣教師の先生方と



仕舞を楽しむ泰正先生



戦災孤児のための“天の家”にて 子どもたちと



京先生のスケッチを楽しむ泰正先生



卒業生は現在^{いま}

「天道是非か」

梅光学院大学院 文学研究科
博士後期課程三年
柴田 稔



私はないだろう。
— 求めなさい、そうすれば与えられる。

去る九月末のこと、「十月から働ける英語の非常勤講師を探している」との電話があった。良い話だと思った。しかし、受けられぬ、とも思った。(今年は大大学院に専念するつもりだ。遠い学校ではないか。勤められても週三日が限界だ。週四日ある二年生の英語をたった三日でどう教えようというのか。生徒にとつて負担ではないか)。逡巡した。中でもとりわけ大きい葛藤があった。高二の春に中退したこの俺に、高二の秋から教える資格なんて、果たしてあるのかどうか。

私が名古屋の高校を中退して今年で十年になる。「今度の学生生活こそは」との思いで入った梅光学院大学。気づけば九年、「もう一回」が高じて、大学院の博士後期課程まで来てしまった。今年が名実ともに最後の学生生活。私はいま、研究に勤しむ傍ら、県内の高校で英語の非常勤講師をしながら生活している。梅光で学んで良かったと、しみじみと実感しているところだ。梅光での学びがなかったら、今日

スなんだ。いまが、その時なんだ。

前任の先生からの引き継ぎで授業を見た。ある生徒が寝ていて、注意されていた。俺にはその生徒が寝ているように見えなかった。眼が燃えているように見えた。高校の頃の俺とダブって見えた。学校に行く意味が分からず、勉強なんて一人でできると思っていた。勤務して四日目の文化祭で生徒がミスタルの『花火』を合唱した。「もう一回、もう一回」と重なる声に、俺がここに来たことの意味を重ねた。「もう一回」のチャンスがいま、与えられているんだ。今度こそ、今度こそ。

— 思い悩むな。
断るべきか否かの瞬間、不意に、聖書の言葉が降ってきた。俺が求めているのは、断るための理由か。「自分は忙しいんで(ほんとは中退してるんで)高校の先生はできません」と言いたいのか。そうじゃないだろう。俺がほんとうに求めているのは、チャンスなんだ。俺の経験や俺の人生、俺という人間を活かすチャン

知識も経験もない未熟者のくせに不遜で傲慢な考えをもつて授業をする俺、それもひねくれ者のならず者で半端者の俺でも、生徒から見たら「先生、絶対お坊っちゃんだよね」だそうだ。この学校のこうした生徒の純朴さは、丁度五〇年前、俺と同じ年で同じ立場で同じ学校に勤務していた祖父によると、どうやら昔からのことらしい。
— 天道是非か。

漱石の「坊っちゃん」にも登場するこの文句は、司馬遼の『史記』に由来する。友人に武帝の怒りを買った宮刑を受けた彼が、善悪を超えた理不尽な運命に向かって放った叫びである。彼の胸中は察するに余り有る。跳梁跋扈し正直者が馬鹿をみる世の中! 天道の公平性を信じるか、信

美智子皇后のお心に 触れて

沖田 孝子
(高15)



じないか。ほとんどの問題は単純な二元論に帰すことができる。しかし、私は今回、梅光での学びに後押しされ、「これは運命なのだ」と確信するほどの数々の出会いに恵まれた。善き先生、生徒に救われた。梅光生である私は、こう思ってしまうのである。ああ、これが天道か、と。

私が手話に心動かされたのは、ちょうどテレビで阪神淡路大震災後に美智子皇后が神戸を訪れた時の事でした。一番ひどかった神戸の地に皇居の

お庭で育てられた花を持参され箱の中からリボンのかわいた小さな花束を地面に置き、手を合わされた時の映像が流されました。準備された大きな花束でなく、心のこもった花に大きな大きな感動で胸がいっぱいになりました。私がガーデニングを始めたのはその時からでした。
そして帰りのバスの中で外に待っている沢山の人たちに「頑張って」と発車するその瞬間まで手話で何度も何度もされていました。手話ボランティアの経験のある紀子様にかかれたそうです。これが私と手話との出会いでした。いつかチャンスがあれば手話を勉強してみたいと思うようになり



ました。彼らに会う時があったら「こんにちは」と手話であいさつ出来たらと思いましたが。

英語を勉強中の今、世界の人々との出会いに「Hello」「こんにちは」として手話で「こんにちは」とあいさつ出来たらどんなに素晴らしいかと思いました。

その日はすぐにやってきました。私の元に届いた市報に手話講習会のお知らせがありました。すぐに連絡して2か月間の勉強が始まりました。日ごろ使うことのない手の動きに、そして手の動きを目で追う動作に手も目も疲れる事がたびたびありました。私にとつて初めての経験でした。研修を終え、どうにか自己紹介出来るようになりました。又大切なのは顔の表情と言われ、まるで女優のようでした。それでも日頃使うことのない手話、覚えるのは連続でした。

それから数年後、大丸で不意に肩をたたかれて、ろうの方に「こんにちは」と声をかけられ、あわてて手を動かしただけもありました。まだそ

のころは手話をしていて、みんながじつとこちらを見てしまう状態でした。

今ではどこでも見られる光景ですが。初めてろうの方に会った時不自由で大変だろうなと思ったのですが、会ってお話をする機会があればあるほど、私よりずっと前向きで人生を楽しんでいる様子に、そんなことを思った自分が恥ずかしくなりました。どんな障害があろうと、それを乗り越える大きなパワーの持ち主であり、今を一生懸命に生きている素晴らしさを教えられました。途中母の介護で半年間中断することになりました。

10年以上もサークルに参加してはいますが、今は覚えるよりも忘れることの方が多く、それでも立ち止まることなく半歩でも前進していく自分でありたいと思うようになりました。時間と体の許す限り継続していきたいと思えます。また、手話歌にも参加した事がありました。

歌詞を手話で表現することで、生きた言葉になることに基づくりしました。2年前英国でレッスンの合間に手話歌

をした事がありました。初めて手話に触れた友達からも心が洗われるようだと言われました。また、町内での敬老会での歌「ふるさと」を向いて歩こう」など好評でした。わたしが出来るたった2つの歌ですがみんなの笑顔に救われます。小さなことが人の役に立っていくことの素晴らしさ。その時には気がつかないことも、いつか必要になる日が来ることも今は知ることが出来ます。

人生無駄なことはないと痛感しています。老いていくこともまんざら悪くはないなと感じ、これからも手話の心を忘れずに、一度限りの人生に生かされている限り、ゴザする事を忘れずにいたい。73歳の今なお人への思いやりを忘れずに今日までいられたのは、50年余り前に梅光で学んだ学生生活が、その時何も気付かずに過ごしていたのですが、その教えは今も絶えることなく、私の心に静かに生き続けていた事に改めて感謝でいっぱいです。10人余りの卒業生がサークルで活動して頑張っています。生涯ハラハラドキ

ドキの青春でありたい。素敵に今日に感謝が my life.

赤毛のアンより

私の好きな言葉
曲がり角のその先には、一番素晴らしいことが待っている。

人生の役割、伝統文化を後世へ

石川 美奈子
(高38短英23)



らの社会は国際交流だと判断して英米文学科を選択し、勉学に励みました。
一般企業に就職して、2、3年経った頃だったでしょう。私の心の中に疑問が生まれていました。このままで良いのだろうか、私に出来る事は何かあるのだろうか、と。それからの私は、模索を重ね、仕事帰りに習字教室、華道、テニスやバドミントンと習い事を始めました。そして、最後までやり通したのが、今の仕事である書の道でした。

私は、梅光女学院の高等学校と短期大学を卒業しました。現在は、自宅と公民館で書道教室を開設しています。「書道」ときいて梅光大学の書道課程を想像される方は多いことでしょう。

しかし、私は当時、書の道を選択してはならず、これか

私は、「正しい、美しい文字」として定評のある日本習字教育財団の支部を開設して、指導をさせていただいていますが、今年度、ご縁をいただいで、他の書道会の先生お二人と共に、「書作三人展」を開催することができました。この書作展での経験は、私にとつ



て大きな宝となり、今後の生徒指導にも生かすことができると確信しています。書友とのご縁、そして周囲の方々の支えがあって、今の私があることにも気づかせていただき、感謝しています。

また、下関市吉見地区に住んでいるということもあり、地域との関係も深く、保健推進委員や地域のボランティア

「梅光制服写真集2017」の制作を終えて

相山 華子 (高45)



梅光のセーラー服がなくなる……と聞いて、同窓生の皆様は何を思われたでしょうか？

悲しみ、現学院執行部への

活動にも積極的に参加させていただいています。

半世紀の節目をむかえ、二人の子供たちもそれぞれの道を歩み始めました。

私の今後の人生は、人との関わりを大切にしながら、日本の伝統文化を後世に伝えていくことを役割とし、更に精進して参ります。

怒り、大切な母校が乱暴に「変革」されていくことへの悔しさや情けなさ、それとも「時代の流れだから、しょうがないよね」というあきらめでしょうか？

私は、セーラー服の変更がもはや覆しようのない決定事項だと悟ったとき、直感的に「記録しなくては」と思いました。

でも、どうやって？これまでに制服をモデルチェンジした他の学校はどうやって、旧制服を記録しているんだろう？そもそも、このような形でのモデルチェンジは本当に普通のことなのか……？

大学を出て20余年、ずっと

取材・執筆を生業としてきた私には「調べグセ」が身体に沁みついていきます。すぐに動き始め、まずは日本の制服事情に詳しい研究家の森伸之さんに連絡を取り、会っていた

だくことにしました。森さんは、梅光のセーラー服廃止についてすでにご存じで、「逆に、なぜあの素晴らしいセーラーが廃止されてしまうことになったのか教えてほしい」と、面会を快諾してくださったのです。

結果、森さんへの取材でわかったことは、ざっと次のようなことでした。

・セーラー服は全国的に減少傾向、ブレザーの制服は増加傾向にある。

・学校改革の一環として制服のモデルチェンジを行う学校は多い。しかし、梅光のように伝統ある私学の制服とは少ない。伝統校の場合、制服は自他ともに認める学校の象徴であり、一つの財産だからである。

・制服のモデルチェンジにあたっては、①モデルチェンジの可否を生徒・保護者等にアンケートをとる②その結果、モデルチェンジが決まった場合は、デザイン案を生徒から募る又は、デザイン案を提示する③人

気投票を行った上で新デザインを決定する、という一般的な方法をとるのが一般的である。

・モデルチェンジ後の旧制服は、学内の資料室等に展示されるケース、学校行事の際にのみ着用する「行事服」として残すケースなど様々である。

と、取材がひと段落したところで、つい「もう下関に帰ってもセーラー服の後輩を街で見かけることができなくなるんだなあと思うと、寂しくて」とつぶやいた私に、森さんがこうおっしゃいました。

「そうなんです、制服が変わるっていうことは、街の風景が変わることですからね。」

この言葉に、私は頭を打たれたかのような衝撃を受けました。そうです、廃止後もセー

ラー服そのものは展示したり保存したりしておけば、いつでも見ることが出来ます。でも、生徒たちがあのセーラー服に身を包んで、例えば丸山町の坂を歩いている姿、下関駅のホームで電車を待っている姿は、もう見る事ができなくなってしまう。セーラー服の梅光生がいる下関の街の風景は、永遠に失われてしまうのです。ならば、私がその風景を記録しよう……、そう決意したのでした。

幸い、いつも一緒に仕事をしているカメラマンに相談すると、二つ返事で引き受けてくれ、下関まで撮影に来てくれることに。梅光が舞台の映画「隣人のゆくえ」を制作した柴口勲監督からもご協力をいただけることになり、モデルは同作のキャスト・スタッフを務めた高1〜3の生徒たち

が引き受けてくれました。当時の中高の校長も校内の撮影を（今考えると信じがたいことに）あっさり許可して下さい、10月下旬の3日間と12月中旬の2日間、計5日間にわたってカメラマンと共に



下関に出向いて校内や市内各所で撮影を執行しました。

撮影中は、ここには書ききれないほど、たくさんの方から声をかけていただきました。「何で、この制服を変えらんかね?梅光と言えよ、このセーラー服やろうがね」

「この制服を見ると、ああ、下関に帰ってきたなああって実感する」

「若い頃は、この制服の梅光生は憧れだった。もったいないねえ、なして、この制服じゃいけないのかね?」

「本当に上品でかわいい制服。大好きだったよ」

「梅光は、本当に間違った決断をしたね。自分で自分の宝物を捨てるなんて、もったいない」

・など。

梅光のセーラー服が、約90年もの間、いかに下関の街に溶け込み、市民の皆様にあざわけてきた存在であったのかを思い知るようになりました。そしてなにより、撮影中に間近に見た、セーラー服の美しいこと!背景を選ばず、どんな場所にもスツとなじむ。時代を超えた普遍的なデザイン

の底力を実感しました。

写真集の販売開始後も、改めてこのセーラー服の「力」を思い知る出来事が次々と起こりました。新聞で紹介されるやいなや、その記事がインターネットを介して全国に伝わり、毎日問い合わせのメールや電話の嵐!結果として、徳島県を除く46都道府県の方から注文を受け、約2か月で手もとにあつた約450冊を発送しました。

山口県を旅行中にたまたまみかけたポスターで写真集の存在を知って心打たれ、電話をくださった北海道在住の方、嫁いだ娘(梅光OG)に送りたいと電話をくださった方、逆に90歳の母(梅光OG)を元気づけたいからと注文下さった方も。下関市内に住むある女性は「私は経済的な事情で梅光に行けませんでしたが、子供のころから、あのセーラー服に憧れていました。せて写真集だけでも手もとに置いて眺めたいと思います」という丁寧なメールを下さいました。都内にある「弥生・竹久夢二美術館」でも紹介されました。

その一方で、一部のOGの皆様からは、お叱りのメールやお電話もいただきました。

多くは「単に写真を並べているだけで、現執行部や制服変更に対する批判を書いていない。これでは何の意味もない!」という主旨のものです。これは私にとって、まったく思いがけないご意見でした。写真集を現執行部への批判の道具として使うなんてことは、毛頭考えていなかったからです。あの美しい制服の写真に、あからさまな批判文を添えるだなんてそんな野暮なことをするのは、元梅光生のはしくれとして、絶対に嫌でした。

ただ、その代りに、今の梅光の運営体制に欠けているのではないかと思うことを、梅光時代に慣れ親しんだ次の聖書の言葉に託して、掲載しています。

「自分自身を愛するように汝の隣人を愛しなさい」
「喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい」
「平和をもたらす人は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」

「

以前の梅光がそうであったように、今もこれらの教えのもとに学校運営がなされているならば、梅光は、今のようなおかしな状況に陥ることはなかったでしょう。十何人もの懐かしい先生がたが一齐に学校を去られるようなことも、セーラー服があのような非民主的な経緯で廃止されることもなかったでしょう。

同時に、私を含め、かつて梅光で学んだ者へのメッセージとして、やはり聖句を載せました。選んだのは、皆様がよくご存じのスクールモットー「光の子らしく、歩きなさい」です。

日々の生活の忙しさに追われ、私たちは梅光で過ごした

日々や先生方の教えに思いを馳せることをつい忘れちゃいます。少なくとも、これまでの私はそうでした。そして、それは知らず知らずのうち、母校への無関心に繋がっていったのではないかと思います。そしてその無関心の引き金の一つになってしまったのではないかと。

今こそ、私たち一人ひとりが梅光時代に心の中にともしてもらった「光」を集め、光の子として力を合わせていかなければならないときが来ています。単に昔を懐かしむだけではない、現執行部を批判するだけではない、全く新しい道を、皆の光で照らし出さねばならないと思うのです。この写真集が、そのきっかけとなることを願ってやみません。

「コール梅光クリスマス礼拝&チャリティーコンサート」に寄せて

2017.12.15. 生涯学習プラザ、会場入り口に飾られた梅光の制服、ひとめ見るなり、あのころにタイムスリップ。セー



ラー服姿のリカちゃん人形にも微笑を誘われます。どんなコンサートになるのでしょうか。ペンライトを手にコールのみなさんが讃美歌を歌いながら入場。聖書朗読に続いて、西福岡教会の齊藤皓彦先生による「神は我らと共にいます」のメッセージ。あわただしい日常の中にあつて心静かにイエス様の降誕をお祝いするひとときを与えられ心より感謝致しました。客席で起立して歌ったハレルヤコーラスもコール梅光の皆様の歌声に届け込んで思いがひとつになったようでした。

続いてのチャリテイコンサートはギターの中野義久氏、ヴァイオリンの立原まさ子氏の演奏。そして澄川先生のソロ。聞かたびに、心に沁みま

だ曲も披露され、華やいだ雰囲気增添了。そしていよいよコール梅光による「セーラー服の思い出」。佐藤泰正先生が作詞された讃美歌「みたまのかよえる」に続いて「マザーテレサの言葉」わたしたちのしていることは、と、梅光らしきにあふれる曲に聞き入ってしまいます。舞台正面のスクリーンには、セーラー服姿の梅光生のスナップ写真が続々に映し出され、懐かしい先生方のお顔も見えます。コールの歌は校歌や別れの歌、学生時代と会場に響きます。コール梅光の歌「光の子らしく」はみなさんが作詞されたものをもち寄ってひとつにまとめられたもので、会員の方々の気持が伝わって参ります。

皆さん同窓会総会やメモリアルデイでも歌われ、日頃の練習に加えて厳しい特訓もあるなかで、気力・体力を維持されているお姿に接し、頭の下がる思いがいたします。美しい歌声に癒され梅光に学んだ幸せをかみしめながら会場を後にいたしました。ありがとうございました。

権藤市津代(高13)

第33回ソフトボール部OG会報告

平成29年10月7日、恒例のソフト部OG会が大学同窓会室で開かれました。三島先生、片山先生、梶間先生をはじめ17名の和やかな会となりました。食事をしながら当時の思い出や近況報告をし、今も早朝テニスが続いているという梶間先生や「毎日朝ドラ見ながら15分間バランスポールで体幹を鍛えています」「ソフトをしていたお陰か骨密度が実年齢より若いという結果で



した。」「この年で歯科矯正を始めました」等、健康にまつわる発表や50代で介護福祉士の資格を取るなど新しいことにチャレンジしている人に皆で大拍手、「白髪染めをやめてカツラにしました」とカツラを動かしてのカミングアウトには大爆笑がこりりました。

又、大阪からタオライアーという木の板に弦を張った楽器を担いでの参加者もいて、タオライアーは楽器といつても曲を演奏するのではなく体に直接当てて音を出すことに、その音と振動を心や肉体や精神に感じるといふことで、皆でわかるがわる音を感じ、その素敵な音色と体を感じる響きに心も体もリフレッシュしておひらきとなりました。

来年も10月第1土曜日(6日)に予定してありますが諸事情により皆様に御案内を送ることができません。この同窓会だよりを見てひとりでも多

くの方がご参加下さいますようお願い連絡お待ちしております。
30年度幹事

高17 小原 政子
083-232-3115
高24 上野みち子
083-234-3564
山本 美枝(福田)(高33)

支部だより

東京支部

平成29年度総会・懇親会は、6月3日(土)東京ガーデンパレスで行われ146名が集まりました。

支部長の挨拶、礼拝の後、総会では、飯沼菜保美さんが支部長に再任されました。

続いて、懇親会のお楽しみは、下関から上京くださった「コール梅光」の32名のコーラスでした。指揮は澄川孝子さん(高23)、伴奏は田村優子さん(高27音)。そして竹内理恵さん(高59音)のヴァイオリンも加わり6曲が披露されました。特に最後の曲「光の子



らしく」は、作曲は穴見めぐみさん(高51音)で、コール梅光のメンバーによる作詞は懐かしさの詰まったもので、学生時代にタイムトラベルしたような感じでした。どれも素敵で楽しく思わず一緒にスイングしたくなる感動的なミニコンサートでした。

その後、学院長代理として新任の島田清中学校高等学校校長により最近の学校の様子をご紹介いただき、同窓会会長代理の永見昌代(大日20)さんによるご挨拶がありました。

会食の合間に今回ご出席いただいた力丸晃先生、梶真真寿美先生、小田豊先生、吉川俊子先生、渡辺憲司先生、向

山淳子先生、今江夏彦先生の楽しいお話が続きました。

また、今回は梅光の中学高校生40名が制作した映画「隣のゆくえ」が8月から劇場公開ということもあり、柴口勲監督、主役の正司怜美さん、助監督の竹内義晶さん(男子1期生)が映画の宣伝に訪れました。ミュージカル仕立て

のこの映画はストーリーも作曲も振り付けも当時中学生と高校生だった生徒たちが行った自主制作映画です。

さらに、10月28日に開催された「木暮実千代生誕100年記念・朗読とトークの会」の案内もありました。

今年の高34と大10の当番幹事6名が準備を行い、梅光の校章をデザインに入れたかわいらしいキャンディを出席者にお配りした他、梅光のセーラー服をそっくり再現した手作りのティッシュケースの販売も行いました。

内容がたっぷりだったこともあり3時間はあっという間に過ぎてしまい、また次回の再会をみんなで誓い閉会となりました。

30年度の総会・懇親会は、

5月22日(火)、新宿の京王プラザホテルで開催いたしました。詳しくは東京支部のホームページ <http://baiko-tokyo.com/?p=3814> をご覧ください。

田中 ゆみ(高34)

平成29年度梅光学院同窓会東京支部総会・懇親会に参加して

久しぶりに週末土曜日開催ということ、週日、私立高等学校で英語非常勤講師として働いている私も参加できるということ、心待ちに致しておりましたところ、支部長の飯沼様から、礼拝の司会を頼まれ、少し緊張しながら当日を迎えました。

礼拝司会ということ、席は壇上近くのテーブルでしたが、周りはその「梅光愛」にあふれ尊敬してやまない方たちばかりでした。当番学年の実際の元支部長、大原様の梅光に対する強い愛に心打たれて、私たち同期は当番をさせていだき、決意を致しました。私が高中の常勤講師だった時の英語の力丸先生。(後に短大、大学で教鞭をとられ、中高の校長も歴任されました。)また、

「ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本」シリーズの著者で、一躍全国的に有名になられ、東京支部の同窓会でも、講演されたことのある向山先生。多くの梅光生をアメリカに送られ、大学で、貢献されました。早稲田の名誉教授でいらっしゃる大社先生の「現代イギリスの女流作家たち」を読んで、卒論はバージニアウルフに決めた私としては初めての嬉しい同席で、大社先生に対してお礼を口にするのができ感謝いたしました。

圧巻は何と言っても、下関から参加して下さった15周年を迎える「コール梅光」の方々、の美しい歌声と華やかで心温まる演出により、会場は一気に盛り上がり全体が1つになつたようでした。

中高の校長に就任された島田先生の「梅光」に対する熱い想いと経験に基づく教育への自信は同窓生にも伝わり、「梅光」の伝統をさらに重んじていただき、さらなる発展を祈るのでした。

下関から、また、方々から参加して下さった恩師の方々

の姿勢に接し、また、近況報告、思い出を聞き、教え子である同窓生たちはたいへん喜び、勇気と力と希望をいただき、感謝でした。

同窓会と言えば、先輩、後輩、同期の方々に会えることが楽しみです。歌の先生でお家に伺っていた清水先生のますますお元氣な姿に接し、また、同窓会で磨きのかかった美しい歌曲を聞きたいものだと思います。同期の浜田さんは当番の際に初めて知り合いになり、それ以来のお友達です。神様に感謝しています。いつもながら、皆で「校歌」を歌えば一体感最高潮に高まります。

今回、特に久しぶりの参加で感じたのは、支部長様をはじめとして、役員、運営委員、当番学年の方々の前々からの周到な準備と配慮が随所に感じられたことでした。当番を経験させていただきましたから、よく分るように思います。恵まれたひとときを与えられ感謝に堪えません。次回の総会・懇親会にも、全国から多くの方々が参加され、共に「梅光愛」を分かち合う一日とな



ることを願って止みません。大盛況でした。ありがとうございます。

岡部伊佐子(大英米文学科4)

いつまでも昔の面影が：

昨年6月に私が中学・高校と通った梅光学院の東京同窓会に出席させていただきまし。数十年振りの恩師および友人など、懐かしい方々に会えたこと本当に嬉しい時間でした。同級生に関しては、世間で云う「いい年」なのですが、梅光のセラー服を今着ても違和感ないよと思えるほど昔の面影がそのまま蘇ってきました(まっ、確かに無理があります)。

卒業来会う機会のない同級生もいましたが、「変わらぬねー！」を合言葉のように交し合い、笑みで昔話に時間を忘れました。

その中で、今回、下関からわざわざ上京して下さった梶間先生や力丸先生との再会は、今でも緊張を覚えるものでした。風紀指導に力を注がれていた梶間先生には、いつもスカート丈や靴の薄さを注意さ

れていました。力丸先生には

授業態度を鋭い眼光で見守られていたように思います。多分、当時、震撼したのは私だけでは無いでしょうが、今となつては感謝の念にたえませ

ん。また、同窓会のプログラムでの梶間先生のコーラスや力丸先生の英語での聖句暗唱(詩編第23篇)には、感動しました。ステージでの暗唱後に

「力丸先生、今でも英語の発音いいですね。」と生意気なことを申し上げたら、「僕の発音は良くて当たり前やん、知らなかった？」と昔と同じ口調で言われ、皆の笑いを誘いました。

その後2次会と称して行った銀座では、力丸先生および先輩、後輩など約20名と一緒に飲みました。恩師とお酒をくみ交わす日が来るとは、とただ懐かしさと幸せとを感じたひと時でした。こういった同窓会を東京でも企画し、実行にサポートいただいた関係者の方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございます。

正木祥子(旧姓：折井)

(高32)

下関支部設立

下関支部の発足会が、4月8日(日)にシーモールパレスで行われました。

64名の参加者が集い、地元での同窓生の絆を強め、梅光の教育の姿を広く市民と共有したいという思いに溢れました。

今後、様々な企画を実施することになると思います。

多くの方々の参加を希望しています。

当日は、梅光をイメージした特製和菓子(松琴堂)もお目見えし、参加者からは驚きと喜びの声が溢りました。



豊浦・豊北支部会

晴天に恵まれた秋空のもと平成29年9月9日(土)191号線がパッと明るくなりました。第3回昼食会(於川棚グ

ランドホテルお多福)が終始和やかに楽しく時が流れ、出席された皆様方に感謝致しております。良かったよ、楽しかったよ、お疲れ様etc:

お喜びの言葉や慰労の言葉を頂き大変嬉しく思っております。191号線の方々は勿論の事、旧市内・九州よりの参加者で拡大コミュニケーションに花が咲きました。縦の繋

がりのこの支部会は普通の同窓会とは一味も二味も違う和気藹々としたテイタムのようなものではないでしょうか。浜崎むつみ(高12)さんステキなショーをどうもありがとうございました。昭和の匂いのするエ

ンターテイメント拍手喝采!この様な楽しいひと時を大事にしたいと思っております。光の子として歩みなさい!

がインプットされている私達の繋がりには当時の、山の上の城へ即タイムスリップして

いました。混沌としている梅光の問題は同窓会会長片山宣子さんよりご説明戴いた通りで同窓会の力は微力なものかも知れません。私達(個人かな?)はただ100年以上に亘る、誇り高い梅光の歴史と伝

統を持続して欲しいと願って止まない一心です。その願いを叶えるには今回のような会が大切だと思っております。

最年長の天崎榮子(高3)さん、速くみやこ町犀川より熊谷和枝(高13)さんにもご出席戴き感謝しております。恩師として岡崎新太郎先生・濱谷静枝先生・巻幡清子先生・安成百合子先生、同窓会会長

の片山宣子先生にお忙しい中のご臨席有難うございました。一言三言のメッセージはか先生達との思い出は語りきれません。清清しく懐かしく嬉しい限りでございました。

今回幹事に梅尾澄枝(高19)さんが加わり大取敬子(高12)さん、森本洋子(高19)さんと大澤宣子で頑張りました。そして司会は山下雅子(高14)さん、イベント司会に井関久江(高14)さんお疲れさまで

した。

皆さん会のあとに二次会、三次会と話が弾み人生のりセツトが出来たのではないのでしょうか。又ホテルのご好意で温泉に入浴された方もいらつしやうたようですね。至福のひとつと共にとこの支



部会を末永く繋いで行きたい
ものです。皆様のご多幸をお
祈り致しております。

次回もお互い元気で会会い
出来ますように！

いろいろ有難うございました。
大澤(高橋)宣子(高12)

第3回 梅光学院豊浦・豊北支
部昼食会

先日9月9日(土)川棚グ
ランドホテルにおいて、梅光
学院豊浦・豊北支部昼食会を
開催し、久しぶりに恩師・先輩・
同期生・後輩にお会いする事
が出来ました。

懇親会の歌のステージでは、
浜崎むつみご夫妻によるすば
らしい歌声・演奏・トークで
会場を盛り上げていただき、
ビンゴゲームでは景品の前に
立ち、どれを選ぶうかと楽し
んでいる様子など、お蔭様で
楽しいひとときを過ごすこと
が出来ました。

会の後は、名残おしいのか
自然とあちらこちらで輪が出
来て、笑い声のある会話がは
ずんでいました。これからも
同窓生がこのような交流を深
めて、一つ一つの輪が繋が

大きな輪となれたらと思いま
す。

最後になりましたが、会を
おおいに盛り上げたビンゴ
ゲームの景品を提供してい
ただいた皆様には、心よりお礼
申し上げます。

次回、笑顔でお元気な姿で
皆様とお会い出来ることを楽
しみにしています。

梅尾澄枝(高19)



第3回豊浦・豊北支部昼食会
2017.9.9
川棚ランドホテルお多福

北九州支部昼食会

恒例の北九州支部昼食会は
7月29日(土)樋口学院長、
片山同窓会会長をお迎えして
門司港ホテルで開催致しまし
た。出席者二十五名は三十代
から八十代。梅光との関わり
は短大だけの方、中高大と十
年間に及ぶ方、初めて昼食会
に参加された方、皆勤賞の方
も皆さん梅光の同窓生である
ということだけで和やかに会
は始まりました。丁度愛着あ
る中高の制服が突然変わると
いうニュースが流れた直後で
したので、参加者一人一人が
梅光時代の思い出や現在の母
校梅光に対する思いを熱く述
べられました。その余韻が残
る二、三日後、新しい制服姿で
梅光のコマーシャルがテレビで
放映されたのには驚きました。

その後緊急幹事会を開き、
これからの支部会の在り方を
相談致しました。同窓会会長
が母校の運営委員の一員に加
えて頂けない現状では、激しく変
貌する母校を経済的に応援する
ことは支部としては難しく、同
窓生一人一人の判断にお任せす
ることに致しました。



今年も支部昼食会を開催致
します。皆様のご参加をお待
ち致します。

2018年度北九州支部昼食会
日時 7月21日(土)

午前11時半受付
会場 プレミアホテル門司港
(旧門司港ホテル)

会費 4000円

申込み及び問い合わせ
TEL&FAX

093-5111-5630
Email mminorita@rapid.ocn.
ne.jp

〒802-0032

小倉北区赤坂3-10-65
森田朋子

締切 7月10日

長崎支部総会

長崎同窓会は、学友とのご縁・
絆のお陰で

長崎支部長 森田美智子

梅光学院とは100年も前
からご縁があった長崎ですが、
「ここ何年か支部活動が途絶え
ていて残念だ、なんとか再度
長崎支部を復活させてほしい」と
いう片山会長様の熱心なア
プローチに心を動かされ、私
で良ければとお引き受けしま
した。

私は大学の日文9回生。梅
光学院大学が開校以来順調
に軌道に乗り、活気に満ちて
いた時代だったと思います。
梅ヶ峠のキャンパスにはたく
さんの女子大生が溢れとても
賑やかだったことを思い出し
ます。私は大学4年間合唱と
勉強に全力を注ぎ、「セシル
コール」の立ち上げから4回
ジョイントコンサートまでス
テージに立ち歌い続けました。
中山先生の素晴らしい音楽性
に魅了され、また、勉強では
一流の教授陣に囲まれて存分
に文学に浸ることが出来まし
た。そんな恵まれた梅光の環



境の中で過ごさせて頂いたことに改めて感謝の気持ちが大きくわき上がってきたのは、教職38年を無事定年退職してからでした。「今の自分がこうして居れるのは梅光での4年間があったお陰・学友たちとの絆のお陰」という感謝の気持ちが大きくふくれあがってきました。

同窓会のお話を頂いてから、今は梅光学院に改めて向き合うことが出来ています。

本部の総会にも出席し、様々な改革問題で学校が揺れていることも実感しました。出来

るだけ学院の真の姿を知るために、ホームページにもくまなく目を通していきます。また総会の時に樋口学院長先生と親しくお話しする機会を得たことも長崎支部立ち上げの大きなモチベーションになりました。同窓会の存在は学友との深いご縁と絆のもとで大きな輪を広げています。

私自身の気持ちにスイッチが入り、あとはスムーズに進めることができました。

1、まず、仲間を集める、自分の片腕になってくれる信頼できる仲間を4名集め、役員になって頂きました。

2、県内に250名もの会員さんがおられること、そのすべての方に往復はがきを出し、アンケートをお願いしました。

長崎支部を立ち上げようと考

えているが、賛同頂けますか? ご協力頂けますか?とお返事を頂いたのが約90通。その中で協力したいという前向きのお答えを頂いたのが50通。

3、その50名の方に第1回総会のご案内を差し上げました。

長崎県はたくさんさんの離島を抱え、交通の便の悪い遠隔地もたくさんです。気持ちはあり

ますが残念ながら行けませんというお返事が有りました。

4、5月26日、土曜日に第1回総会を開催いたしました。小さな会から始めよう、これから少しずつ広げていこうと考えています。

同窓会長崎支部の規約を考えて提案したのですが、この会の目的

「本会は梅光学院を幹としてそれに繋がる長崎県在住の同窓生の親睦を密にし、母校の振興を図ることを目的とする。また、会員相互の信頼関係を築き、生涯学習の観点からも教養を高め充実した人生に寄与する」としました。皆さんに大きな賛同を頂きました。

今後の長崎支部の展望としては、参加会員を少しずつ増やしていくこと。参加して楽しい、もったこんなことをやっていきたいなど、会員様から率直な意見をいただくこと。

今回も、昨年制作された「隣人のゆくえ」の映画をぜひ鑑賞したい、ホームページを立ち上げて欲しい、来年新校舎ができたら学院見学に行きたいなどなど上がっています。

会員にとつては数十年、時を隔てていますので、現在・未来の学院の姿をきちんと知っていたきたい、知った上で同窓会としてどのような協力や支援ができるのかを考えていきたいと思っています。

活動への夢は広がるばかりですが、確実に一歩一歩の歩みを重ねて行きたいと考えています。本部からのご指導やご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

今、時代は大きく変革し、「私たちの育った学生時代とは違う」ことを素直に受け入れ、これから半世紀後の梅光、100年後の梅光に思いを寄せ支援していきたいと思えます。各支部の活動を充実させ、同窓会本部を支えていきたいと思えます。

一年前、平成29年の夏頃から母校の心配な噂が耳に入り始め様々な情報がある中、母校のためにも正しい情報を共有しなくては、と同窓会室を訪れました。片山先生に「同期の繋がりを強くすれば同窓会が強くなる」と言われ、同期のグループラインを作ってみると、個人ラインも含め約50人のグループになりました。そして、私達、来年還暦じゃない!楽しい還暦同期会を開こう!と地元の有志で準備開始。日程は同窓会総会と

同期会

高29 還暦同期会

平成30年5月12日、下関海峽ビューで、9年ぶりの同期会を開催しました。





梅光学院同窓会 2018 (平成 30) 年度総会

* 2017 年度 (平成 29 年度) 行事報告 *

- 2017年
- 4月7日 中高入学式 13:00~(片山、磯谷 出席)
 - 4月18日 役員会
 - 5月2日 会計監査 正文文恵、梅尾澄枝
 - 5月13日 同窓会総会 シーモールパレス 13:00~16:00 (総会 204名、懇親会 183名出席) (1)総会 (2)懇親会 卒業生による演奏会、コール梅光コーラス、軽食・懇談
 - 5月30日 役員会
 - 6月3日 創立記念式典(片山、濱谷 出席)
 - 6月3日 東京支部総会 東京ガーデンパレス(島田校長、永見出席)
 - 6月17日 役員会
 - 7月4日 第17回梅光メモリアルデー 13:30~15:00 スタージェスホール (1)礼拝と賛美 (2)コール梅光 合唱
 - 7月7日 梅光誌49号発行 21,000部
 - 7月29日 北九州支部会昼食会 (院長、片山、磯谷 出席)
 - 8月19日 役員会
 - 9月9日 豊浦・豊北支部昼食会 川棚グランドホテル (片山、磯谷、濱谷、安成 出席)
 - 9月16日 役員会
 - 10月21日 役員会
 - 11月18日 役員会
 - 12月5日 80歳(高7)以上の方へクリスマスカード発送 1,083通 (内、海外5通は11月に発送)
 - 12月14日 役員会
 - 12月15日 コール梅光クリスマス礼拝・チャリティーコンサート
- 2018年
- 1月9日 大学卒業新入会員同窓会入会式(卒業準備会の時) 10:40~11:40 234名 (濱谷、片山、磯谷、岩男 出席) 卒業・入会記念品(ふろしき)
 - 1月20日 役員会
 - 2月3日 第2回 海峡会 シーモールパレス 15:00~17:00 約40名参加
 - 2月17日 役員会
 - 2月28日 高校卒業新入会員同窓会入会式 山田記念ホール 85名 卒業・入会記念品(ふろしき、制服写真集) (磯谷、畠中、岩男 出席)
 - 3月1日 高校卒業式 10:00~(濱谷、磯谷 出席)
 - 3月11日 中学卒業式 10:00~(片山、磯谷 出席)
 - 3月11日 大学・大学院学位授与式 13:30~(片山、磯谷 出席)
 - 3月17日 役員会
 - 4月8日 下関支部発足会 15:00~16:30 シーモールパレス 64名参加

同じ日の夕方。150名に案内状を送り、100名からのお返事。出席は39名でしたが、たくさんのメッセージも頂き、恩師に片山先生、力丸先生、浜谷先生、安成先生をお迎えして楽しい会が開かれました。学生時代に感じていた先生たちとの歳の差がこの歳になると近かった事に驚くとともに、パワー一杯、若々しい先生方にびっくり。賛美歌(音楽科卒の方の伴奏)で始まった会。学生時代に戻り飲んで食べて大笑い。おしゃべりに花が咲きあつと言う間に時間も過ぎ、梅光女学院の卒業生という誇りを持ち、最後に校歌で終わりました。

次回はいつかな?次回は会いたいね。次回も会いたいね。

藤澤 (旧姓柴田) 美智恵 (高29)

平成 29 年度会計報告

科 目	29年度予算	29年度決算
収入の部		
終身会費取崩し		
繰入金収入	8,141,000	3,834,754
繰入金		
会費	654,000	606,000
会費	2,000	0
受取利息	73,000	75,371
受取利息	20,000	14,000
受取利息	3,000,000	2,112,000
受取利息	50,000	113,777
収入計	11,940,000	6,755,902
支出の部		
事務費	2,200,000	1,982,912
旅費	200,000	77,280
通信費	2,000,000	1,298,606
印刷費	3,500,000	2,476,596
行事費	700,000	565,265
交際費	200,000	88,320
雑費	70,000	73,322
光熱水費	70,000	63,601
教育支援費	3,000,000	130,000
支出計	11,940,000	6,755,902
当年度収支差額	0	0

貸借対照表

		平成30年3月31日	
現金	160,252	終身会費	88,418,579
預払金	93,956,088	引当金	6,471,954
	899,217	預り金	125,024
	95,015,557		95,015,557

上記平成29年度決算及び貸借対照表の会計報告に関して帳簿・証拠書類等を監査致しました。記載事項は事実に基づいており適正であることを認めます。

同窓会監査人 梅尾澄枝

2017 年度 (2018 年 3 月迄に) お知らせのあったご逝去者名 (43 名) 御霊の上に、そしてご遺族の上に神様のお慰めのありますように。

旧職	花田 喜美子	2017. 8.3	高9	品川 勝江(植田)	2017.12.22
旧職	佐藤 京	2017. 12.5	高10	堀 トミエ	2018.1.14
旧職	宝木 多加志	2017. 6.30	高12	西田 陽子(上林)	2017.1.8
旧職	岡山 研一	2017.9.1	高12	泉 京子	2018.2
旧職	満嶋 良	2018.2.13	高13	秋本 佳代	2015.6.5
旧職	安森 敏隆	2018.1	高13	木内 佑子	2016.7.24
旧職	森作 常生	逝去不明	高15	奈良 邦子	2017.7
梅20	渡辺 寿美子	2017.11.7	高29	中島 直子	2017.2.6
梅23	田中 輝子	2008.	高36	板谷 智美	2017.4
梅24	中村 豊栄(野口)	2018.4.1	高57	興津 孝美	逝去不明
梅26	中井 民子	2016.5	短日8	小原 恵子	2010.11.18
梅27	重広 文子	2017.2.13	短日13	上野 清栄	逝去不明
梅27	角 君江	2017.7.24	短英8	市吉 妙美	2016.1
梅29	伊藤 京子(宮城)	2015.5.3	短英10	藤原 洋子	逝去不明
梅29	井原 文子	2016.10.14	短英11	大野 琢子	2017.1.11
梅31	金森 和子	2017.1.8	短英27	木村 美由紀	2017.7.18
梅32	勝部 達子	2016.6	大英4	高橋 文恵(伊藤)	2006.10.28
梅32	吉原 麻理	2017.6.27	大英12	西江 真由美	2017.5.26
梅35	春口 みつ子	逝去不明	大日13	山本 はるな	逝去不明
中1	清成 綾子	逝去不明	大日25	松尾 綾	2003.1.10
高3	福田 映子	2017.7.14	会友	藤田 尚子(上杉)	2018.3.17
高3	増田 幸美	2017.5.6			



梅光同窓会総会

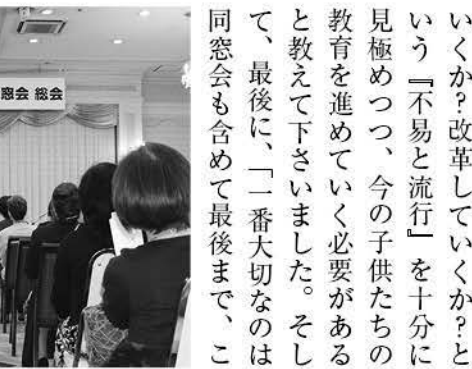
梅光同窓会総会
木々の緑に段々と力強さが
増していき、吹く風にも心地
よさを感じる季節。平成30年
5月12日(土)、「梅光学院同
窓会総会」がシーモールパ
レ「ダイヤモンドの間」にて
開催されました。ほぼ満席の
状態で、約200名の同窓生
と共に樋口学院長もご出席下
さいました。



厳かな雰囲気の中、賛美歌
312番の歌声とともに総会
の開始となり、礼拝後には「梅
光学院チャペルクワイヤ」(中
高生12名)の皆さんの天使の
歌声が会場いっぱい響き渡
り、こころあらわれる思いが
しました。

続きまして、小田豊先生(元
梅光女学院中・高教諭 短大
講師)をお迎えして『少子化
と私学教育のあり方』につい
てご講演頂きました。小田先
生は、ご多忙中にも関わらず、
短い時間で教育界の立場から、
大切なメッセージを私たちに
投げかけて下さいました。「少
子化」が叫ばれている昨今、
時代の大きな波の中で、昔な
がらの教育(伝統)を守って
いくか?改革していくか?と
いう『不易と流行』を十分に
見極めつつ、今の子供たちの
教育を進めていく必要がある
と教えて下さいました。そし
て、最後に、「一番大切なのは
同窓会も含めて最後まで、こ

の学校が無くならないように
祈るしかない。相手を認めな
がら、相手に変わってもらえ
るように、しっかり梅光を愛
するということに変えるしか
ない。あなた方一人ひとりが
心を寄せ、こういう同窓会を
何回も続けることで初めて気
づいてもらうしかないと思っ
ています。」と大変心強いお言
葉で、私たち同窓生にエール
を送って頂きました。



講演会に引き続き、同窓会
会長の選挙が行われました。
今回の立候補者は、片山宣子
さんお一人でしたので、選挙
規約に基づき、信任不信任を
諮り、結果信任が過半数を上
回り、同窓会会長は片山宣子
さんに決定しました。今後、
片山宣子会長を中心に、同窓
会がよりよいもの、そして更
に盤石なものになるよう、同
窓生みんなで支え盛り立てて
いく必要があると感じました。

また、事務局報告の最後に、
精力的に活動されておられる
各支部の近況を、東京・飯沼
菜保美様、下関・大上純子様、
北九州・森田朋子様(ご都合
により懇親会会場にて)、長崎・
森田美智子様各支部長より
報告して頂きました。片山会
長は、「支部の活動を押し進め
盛り上げていき、同窓会としっ
かり連携しすぐに動けるよう
な形にしていきたい。同窓会
も足腰のしっかりした意思を

行事報告、2017年度決
算報告・会計監査報告、事務
局報告があり、「新制服移行に
ついて」「会員名簿製作につ
いて」「同窓会会費の徴収の仕
方について」片山会長から説
明がありました。中でも、新

制服移行に関しては、同窓生
の中に混乱をまねいてしまっ
たことへのお詫びと報告がな
されました。新制服を着た人
たちも私たち梅光の後輩であ
ると広い心で現実を受け入れ
ることも必要な時期に来てい
るのではないかと、胸の内
を語られました。しかし、制
服の問題は今までの自分たち
するよい機会となったことや、
60年続いた制服の写真集を出
したいという卒業生の申し出
があったことも報告されまし
た。素敵に仕上がった写真集
は、総会当日受付近くで他の
梅光グッズとともに販売され
ました。

もったものにしていきたい」
と展望も述べられました。
次に、2018年度の提議
①教育基金規定執行、②新事
業案「出版物」の2件につい
て審議されました。

提議①について。「現在大学
は多くの生徒が学んでおり、
新校舎を建設しています。同
窓会としては、学生のために
2年間で(500万・500万)
の計1000万の支援をして
いきたい」という内容でした
が、「支援の内容を学生、教職
員のための備品として提示し、
来年度また改めて提議する」
ことになりました。



提議②について。「梅光で受
けた教育はどういうものだっ
たのか」という記録を残して



おく必要があると考えていることから、300万程度を見込んで編集事業に取り掛かりたいという内容で、この件に關しては提議通り可決されました。

審議の中では、同窓会と学院との関係についてや、学院のあり方について、質問や意見が数多く出され、片山会長や濱谷前会長、樋口学院長がマイクの前に立ち説明されました。

また、総会終わりに合唱部の保護者より教育支援基金を同窓会からいただいた生徒達喜んで感謝していたとお礼が述べられました。続いて「梅光の会」のご案内、2018年度予算審議と進み、全員で校歌を歌って総会は幕を閉じました。昨年同様、時間が押ししてしまいましたが、しかしこんなにも熱い思いを持つている同窓生の方々がいる限り、今の現状は、きつと乗り越えられると感じました。

懇親会は、「エメラルドの間」に場所を変えて行われました。懐かしい恩師や友人と語り合う笑顔と会話で、温かく和やかな時間が流れて行き



ました。その雰囲気の花を添えて下さったのが「コール梅光」の方々の歌声です。そして、恒例の全員による「ハレルヤ・コーラス」。大合唱で会場が一つになったところで、今年度の「同窓会総会懇親会」は終

了致しました。

最後になりましたが、片山会長をはじめ事務局の方々、先輩、後輩に支えていただきながら、多くの皆様に参加して頂き、無事に幹事の大役を終えることができましたこと、当番幹事一同、心よりお礼申し上げます。幹事という立場から数十年ぶりに連絡をとった友もいます。いくら年月が流れても「梅光」という学び舎で強く結ばれていることに感謝し、また来年も皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。本当にありがとうございました。

石橋 ひとみ
(短日25) (大日23)



「少子化と学校教育の
進市場化と教育の質」

小田 豊

(経歴)
大学卒業と同時に梅光女学院へ(在籍7年、その間九州大学教育学部と医学部へ研修)その後、滋賀大学教育学部に20年勤務。文部科学省へ転籍。現在、聖徳大学等で教える。

I 少子化による子どもの教育、子育て支援への変化と課題

少子化と共に子どもの発達の加速減少の影響による教育界の混乱がある。

発達加速の加速現象の例

歯の変化(22、28、32 乳歯や親知らずの変化)
鼻水の変容(あおバナから水バナ)

瞬きの変化と原始感覚の後退
*いずれも栄養食物と環境整備の進化によるところが大きいが、学者の考え方が二分された。

*子どもの発達が加速され、従来の子ども観では対応できないのではという考えと、新しい子ども観に立つて教育すべきだという考えに二分されているのです。

現象としては発達が加速していることもありすが、基本的には栄養面の改善と環境の変化によることが多いのです。むしろ問題は心の発達が遅れていることです。例えば、いじめの増加や不登校の増加など子どもの心の空洞化現象が増えていることが深刻です。

プロローグ
少子化社会の現状
出生数、出生率の推移(第一次ベビーブーム期には270万人1970年昭和45年、1984年昭和59年には150万人を割り込み、1991年平成3年以降は増加と減少を繰り返している)の結果、現在は子どもの人口と総人口に占める割合は12.4%、1980年は35%だったが総人口数も減少傾向になり、増加は東京都だけで地方は軒並み減少。



教育は、心の成長を考えるべきです、だとすれば軽々に教育の考え方を要するべきではないのです。

しかしながら、いわゆる守旧派の考え方は残念ながら新しい教育派に敗れてしまった。その結果、学校教育にも影響が出始める。

・量的な学力観から質的学力観への転換
・発達観の転換(できる、できないからプロセスへ)
・私学だけでなく公立学校の中に塾の参入が始まる。

・入試の自由化(推薦入試の増加、一芸入試、アドミッショ
ン入試の導入)
こうした流れの発端であり

推進したのは2000年、小泉政権の発足です。「聖域なしの規制緩和の導入」である。

従来、医療、福祉、教育、農業などの公的関与の強い分野には「営利主義に走ることは、利用者の利便性を損ない、公共性が保護されない」ということで民間導入が制限されてきた。(児童福祉法には規定されていないが、厚生省の通知として明記、学校教育法には第6条・国、地方公共団体、

学校法人に制限) 「聖域なき規制緩和」により、学校教育への民間企業(株式会社)の参入を認可

明治以来の教育の命題であった「不易と流行」の哲学が崩壊

(特に、初等教育教員養成の緩和、新設大学の開学ブーム(子ども学科等の新設)

II 教育・保育の準市場化の加速

2000年から2015年にかけて本格的な教育・保育の市場化が急速に進む

規制緩和の促進(背景には待機児童ゼロ作戦とともに施設

の運営は民間活力の推進) 厚生労働省では、子どもの最善の利益を損なわないために今後整備を進める。

文部科学省では、特区による学校の新設の許可。

規制緩和は保育の現場で行拡大した。保育、幼児教育は厚生省の管轄である。文科省も従来、教育の根幹を語るものとして堅持してきた「不易流行」の「不易」の部分、つまり教育に市場原理を持ち込まず、教育は国の根幹とし

て子供を利する(利益受給者は子ども)ものである、故に国が責務を負うとしてきた。この考え方が急速な世界の変化、新しい子ども観、少子化という深刻な問題の影響を受け、準市場原理の推進の第一

歩が始まったと言える。しかし、現状は思った通りには進んでいない。2014

年時点では24道府県に拡がっているが企業運営の可能な認可保育所は6%に留まっている。

企業立学校は、0.2%に留まっている。

その理由は、池本氏の指摘では、社会福祉法人と企業保育所がイコールフットリングになっていないことを挙げて

いる(憲法89条に抵触の可能性・ハード面への補助)。たしかに現状では、企業の協力は不可欠であるが、一方、株式による配当金の存在や企業努力による教材の一元化や給食会社の設立、保育者の採用方法、地域性や保護者との関係性の希薄化等々、保育のベ

ルトコンベア化への懸念と保育の質の低下が課題になっている。また、学校教育の経営に民間企業の参入が加速化し

始め、企業による学校教育の開設(トヨタによる高等学校、通信教育による高等学校等々)がされたが、あまり拡

がらなかった。そこで利益追求が命題である市場原理は、学校開設から、少子化による学校閉鎖や統合

に着目し、方向を変化させた。従来の学校経営の困難校の拡大に対して民間の教育コンサル

タント会社を設立し始め、教員採用を含め教育内容にも

影響を及ぼし始めた。教育の利益受給者は子どもという考えから、市場原理に基づく企業活動へと変化していくことになる。(例えば、ブレインアカデミー等々)

III 準市場化にかかわる国際動向

民間参入の教育は実は、世界でも珍しくない。

1980年の英国から始まったが、爆発的には拡大はしていない。ナショナルカリキュラムと保育の質評価が厳しい。(Ofsted:教育監査委員

による定期的な保育所、幼稚園の保育評価結果の公表が義務付けられていることによる) 現在、最も企業協力が進んでいる国は、ニュージーランドである。しかし、ここでも国が主導した「教育評価局」がしっかりと動いている。

ノルウェーも企業保育の充実した国として注目されている。ここでは、「親の協議会」、「親・教育委員会・所有者協議会」

が義務付けられ、定期的に評価が公表されている。日本では、こうした保護者の協議会や学校の在り方に関

わる評価を含めたことへの義務化がなされていないことで各地で問題が起き始めている。

(例えば、立教女子短大、東京女子学館、山形酒井短期大学等々)

最後に個人的には、企業による学校教育への参入、コンサル会社への依存は違法ではないけれど、私学の建学精神や教育内容の特色化は教師と保護者が協力して守っていくべきではと考えています。現状の梅光学院の学校教育の在り方には明るい未来が感じられず寂しく、残念に思っています。



高35音	相良佐輝子(有吉)	3	高17	合林紀子(岩本)	3	高10	伊田美智子	3	高2	小須田玲子(藤津)	3
高37	篠原素子	3	高17	岡崎英子(菊谷)	3	高10	市河純恵	3	高3	立石耐子(有益)	3
高37音	古澤典子(東)	3	高17	桃井俊子(古藤)	6	高10	筆谷恵美子(木本)	3	高3	熊沢郁子	3
高38	津田里美(来島)	3	高17	斉藤静江(寺下)	3	高10	松本さち子(小島)	3	高3	島田幸子(島田)	3
高38	稲岡昭子(黒瀬)	3	高17	斉藤香子(堀越)	3	高10	佐藤朱美(佐藤)	3	高3	仲谷仙子(松代)	3
高39	久保田澄子	3	高18	宮原民子(相沢)	3	高10	藤井信子(鈴木)	3	高3	柴田節子(村岡)	3
高40	山中弘子(安部)	3	高18	金田敏子(東)	3	高10	荒川純子(園田)	3	高4	中野實子(異儀田)	3
高40	矢野雅子	3	高18	寺沢美恵(市倉)	3	高10	長谷川久子(豊中)	10	高4	鯉川絹子(活田)	3
高41	植木圭美	3	高18	小川博子(岡崎)	5	高10	島谷幸子(豊田)	3	高4	河村貞子(金子)	9
高41	桜井敬子	3	高18	堀井ヨシ(瀬尾)	3	高10	中川泰子(中川)	3	高5	三代 緑(一色)	3
高42	溝口明子	3	高19	赤川伴子(小田)	9	高10	三好久美代(中野)	3	高5	小川和子(稲田)	3
高43	植田みどり(梶間)	6	高19	村上峰子(加賀)	3	高10	森 紀美(中村)	3	高5	金川享子(大津)	3
高54	梅崎 礼	3	高19	神代陽子(久保)	3	高10	神原満子(波多野)	3	高5	北村勝代(大浜)	3
高54	年見聖子(中野)	3	高19	坂本久美子	3	高10旧職	浜谷静枝	50	高5	勝田ツタエ(金子)	3
高57	松本由希	3	高19	森本洋子	3	高11	川原玲子(植田)	3	高5	久木田紀子(久木田)	3
高60	安富 遥	3	高19	安成千恵子(安本)	3	高11	森田朋子(岡崎)	3	高5	室井一子(小池)	3
高62	江藤さゆり	9	高19	松田ちづこ(山中)	3	高11	林 家代(亀田)	3	高5	重中美蓉子(重中)	3
高67	藤岡葉央	3	高20	飯田道子(上田)	9	高11	西山恵子(鴻池)	3	高5	富田芳子(島崎)	3
高70	上垣内愛佳	3	高20	佐藤敏枝(児島)	3	高11	濱田敏子(島崎)	3	高5旧職	平良美代(平良)	100
短英1	宮佐充子(赤川)	3	高20旧職	安成百合子(竹田)	9	高11	堀野由紀子(白石)	3	高5	本田節子(中川)	9
短英1高16	来村寿美子(井上)	6	高20	松田美恵子(松田)	3	高11	堀内紀代子(立石)	3	高5	林 昌子(長沼)	3
短英1高16旧職	野村佐登美(郷)	3	高20	村上美枝	3	高11	青木百合子(前田)	3	高5	川島綾子(野田)	3
短英1高16旧職	阪本和子	6	高20	藤木照子(和田)	3	高11旧職	桐村亘子(松田)	3	高5	緒方和子(広田)	3
短英1	藤永悦子	3	高21	三好まり子(有田)	3	高11	渡辺紀子(山崎)	3	高5	久保玲子(堀田)	9
短日1高17	藤井久美子(木川)	3	高21	金田秀子(七野)	6	高11	山本喜世子(若狭)	6	高5	石部文江(松原)	3
短日1高17	樋口慶子(近藤)	3	高21	金沢寿榮子(宮下)	3	高11	和田ミチエ	6	高5	村上清子(山本)	3
短日1高17	谷川百枝(山本)	3	高21	飯沼葉保美(山村)	30	高12	和田礼子(石黒)	3	高5	永露道子(横井)	10
短英2高17	本村真理子(金子)	3	高21	寺田壽美子(吉田)	3	高12	坂本保子	3	高5	小野華子(吉村)	3
短英2高17	小原政子	3	高22	福田牧枝(上野)	3	高12	安藤緒子(佐藤)	6	高6	中野智子(伊藤)	6
短日2	宮本須磨子(下妻)	3	高22	本末加代子(中川)	3	高12	井藤澄子(中村)	4	高6	西田小夜子(後)	3
短日2	浅田美子(滝原)	3	高23	岡田真弓美(井本)	3	高12	植木昌子(永松)	3	高6	上笹ノブ(柿原)	3
短日2	伊藤幸恵(武波)	3	高23	三輪二葉(上野)	3	高12	結貝和子(野間)	3	高6	浜田陽子(豊田)	3
短日2高18	島中節子(中島)	6	高23	山崎栄子(末広)	3	高12	村田友子(藤田)	3	高6	大和明美(中尾)	9
短日2	宮崎純子(中畑)	3	高23	中尾和子	3	高12	寺島芳子(藤本)	3	高6	奥田美沙子(久野)	3
短英3高18	杉山和加子(荒井)	3	高24	村田小夜子(今橋)	3	高12	宮本佑子(山崎)	3	高6	東原美智子(藤井)	3
短英3高18	津田千鶴子(植田)	3	高24	城一道子	3	高13	青木礼子(青木)	10	高7	高本道子(秋本)	3
短英3	久保田啓子(徳田)	3	高24	古本圭子(唯岡)	3	高13	赤星悠紀子(上野)	3	高7旧職	中田百合恵(安部)	3
短英3高18	堀川順子(堀川)	3	高25	松尾カズエ(橋田)	3	高13	沖田節子(沖田)	5	高7	中川照子(石橋)	3
短英3高18	桜井千恵子(山野)	3	高25	日野原静子(楠)	3	高13	小野映代(小田)	3	高7	高村房子(和泉)	3
短日3高19	正木文恵(田中)	6	高25	徳海愛子(徳海)	3	高13	山崎幸子(木村)	3	高7	斉木洋子(岡崎)	3
短英4高19	藤原美津子(平)	3	高25	吉田真子(藤田)	9	高13	保坂美代子(国岡)	3	高7	川端幸子(金子)	9
短英4高19	島村久恵(船木)	9	高26	砂田みどり(佐竹)	3	高13	飯谷和枝	3	高7	大波トクヨ(兼子)	6
短英4高19	大野美加子(益森)	3	高27	池添佳枝(原田)	3	高13	入江千寿子(嶋村)	3	高7	橋本麗子(岩本)	3
短日4高20	西村佳代(川村)	3	高27	鈴木智子(柳井)	6	高13	武内信恵(武内)	3	高7旧職	中野由己子(高橋)	3
短日4	河井千恵子(七田)	3	高27	横田のぞみ(山中)	3	高13	前田廣子(西島)	3	高7	田中麗子	3
短英5高19	河崎百合子(坂本)	3	高27音	村山紀子(小木)	3	高13	谷 京子(花本)	3	高7	松野鈴枝(豊田)	3
短英5	草田和枝(張草田)	10	高28	波多江登喜子(林)	3	高13	赤城晴美(藤井)	3	高7	田中彰子(長谷川)	3
短日5	大西恵子	3	高28	田中早苗(林田)	9	高13	続木千加代(船津)	3	高7	三輪節子	3
短英6高21	梶山栄子(梶山)	3	高29	平田静枝(井上)	3	高13	三塩明美(増本)	3	高7	清水玲子(山崎)	3
短日6高22	安武公子(石若)	3	高29	盧刈由美子(中村)	9	高14	伊藤敬子(今井)	3	高8	尾木国子(大西)	3
短英7高22	梶原淑枝(稲井)	3	高29	番地香織(野坂)	3	高14	岡 菊子(木下)	3	高8	野口千恵子(高石)	3
短日7	藤村敦子	3	高29	佐藤久美(林)	3	高14	白須美紗子	10	高8旧職	松本節子(島居)	3
短英8	矢笠常代(伊藤)	3	高29	大隅ゆかり(山田)	3	高14	西田ヒロミ(中川)	10	高8	長谷川美津枝(長谷川)	3
短英8高23	川端佳子(梅田)	3	高29音	桃崎元美	6	高14	藤津淳子(二階堂)	3	高8	狩野和子(富士)	3
短英8	佐方久美子(岡村)	6	高30	川崎晴実(上田)	3	高14	岡崎郁子(西川)	3	高8	柿原裕子(南)	6
短英8	宮本隆子(児玉)	3	高30	山本弘子(福原)	3	高14	岡崎政代(野村)	3	高8	久保英子(村上)	3
短日8高24	内田京子(藤井)	3	高30音	明田恵美(四方田)	3	高14	田中安子(吉本)	3	高8	中島節子(吉田)	3
短日8	橋崎美佐子(松本)	6	高31	大方邦江(古谷)	3	高15	山口美紗子(今村)	3	高9	小園美智子(池田)	3
短日8	宮崎悦子(渡辺)	3	高32	正木祥子(折井)	3	高15	三井美枝子(近藤)	3	高9	桑原京子(大村)	3
短英9高24	竹内節子(久保)	3	高32旧職	岩男晶子(鍋島)	3	高15	大田登久子(樺)	3	高9	安藤清子(菊谷)	3
短英9高24	林 加代子	3	高33	吉村純香(石井)	3	高15	浴本泰子(藤山)	6	高9	池田節子(富永)	3
短英9	田中敏子(別府)	3	高33	小宮康代	3	高15	鬼頭幸枝(古谷)	3	高9	谷 禎子(西村)	6
短日9高25	佐々木玲子(小湊)	6	高33	寺原邦子(坂本)	3	高15	有富洋子(村上)	3	高9	河田紀子(福原)	3
短英10高25	永井妙子(今永)	3	高33旧職	大上純子(西村)	3	高16	小林素子(市河)	3	高9	横山佐治子(藤本)	3
短英10	久保法子(浦田)	3	高33	山本美枝(福田)	3	高16	樋口武子(大空)	3	高9	和田加代(宮内)	3
短英10高25	百田純子(江本)	3	高33	北村由美子(吉原)	3	高16	城村順子	1	高10	鮎川澄子	3
短英10高25	雁木通子(東浦)	9	高33	長谷川奈津江(蘆)	10	高17	田中展子(石田)	3	高10	作田久美子(池辺)	3

2017年度

運営費寄付者名

単位千円

2016.4.1～2017.3.31までの受付
ご支援を感謝します。

旧職	河田 修	3
旧職	新村君子	10
旧職	吉川俊子(牧野)	1
旧職	巻幡清子	3
旧職	青木泰子(山中)	6
旧職	青木紀雄	3
旧職	上村珠樹	3
旧職	斎藤直而	3
旧職	白沢千枝子	3
旧職	宮本幸治	3
旧職	矢田裕士	3
旧職	湯木洋一	3
旧職	清末義和	3
旧職	武原 弘	9
旧職	小山禎子	3
旧職	中野節子	3
旧職	園山晃三	10
旧職	岩本康子	6
旧職	中山 敦	3
旧職	岡野千代子	3
旧職	西田 界	3
旧職	村上孝治	3
旧職	向尾千重子(樋口)	3
旧職	安富恵子	3
梅23	清水公子(伊藤)	3
梅23	飯豊スミエ(国本)	3
梅24	長谷川裕子(平山)	3
梅27	俣野八重(青木)	30
梅27	鈴木澄子(中野)	3
梅29	藤井みどり(柏木)	3
梅29	古賀達子(古賀)	3
梅29旧職	村上美代(船岡)	30
梅30	生嶋菊子	3
梅30	大房敦子(斎藤)	3
梅31B	野田馨子(赤司)	3
梅31B	柴垣美代子(秋野)	15
梅31B	久保田裕子(木下)	3
梅31B	今泉綾子(草薙)	3
梅31B	重友照恵	3
梅31B	武久禮子(武久)	6
梅31B	大谷御代子(寺田)	3
梅31B旧職	阿部敬子(富田)	3
梅31B	中野静江	3
梅31B	中村 馨(藤井)	6
梅31B	平沢信子(山上)	9
梅31B	吉武裕子(山口)	3
梅33	森岡恵子(和田)	3
梅34	福田百合子(山本)	3
梅35	柿本博子(黒田)	3
中2	植田千鶴子(木原)	3
中3	越島俊子(東)	3
中3	奥津倫子(山邊)	3
中4	山名しづか(樽見)	3
中6	矢野淳子	30
中40	前田紀子	24
高1	野村玉枝(野村)	3
高1	伊藤幸子(播川)	3
高2	清 隆子(内海)	3
高2	児玉光恵(河村)	3
高2	勝目良枝(住田)	3
高2	岡田佳津(原田)	3



大46日 山崎美貴 3	大17英 鴻池郁子 6	大8日高24 林 由紀(寺本) 3	短日26高42 今道裕美 3	短日10 藤田良子(大塚) 3
大46日 安光皓生 3	大17英 後藤律子 3	大6英 郡司島節子(立岩) 3	短日27高43 中村真理子(市村) 3	短英11 古見邦子(末武) 5
大47日 大谷論史 3	大18語高34 江後紀久子 3	大7英 香月順子 50	短英28 佐々木理子(石川) 3	短日12 五輪喜久子 3
院前日3 林田千恵子(薦) 3	大18語 河野行子(藤田) 3	大7英高25 磯谷由美(林) 10	短英29高44 宮本由紀子(原田) 15	短英13 大長美子(長尾) 3
院前日3 大日8高26 来見田恵子 3	大19語 原田祥子 3	大日8高26 本保治代(下瀬) 3	短英29高44 小野佳子(江藤) 3	短日13高29 岡本智子(高島) 3
院前日5 大塚順子(木下) 6	大20日 大森亮子 3	大英8高26 大本美智子(江崎) 3	短日29 近藤靖子(宇田) 3	短英14高29 藤沢美智恵(柴田) 3
院前日7 大岡淳子(中村) 3	大21英 大串厚子(野中) 3	大日9 森田美智子(久原) 9	短日29 野中美和 3	短英15高30 木村雅子(目黒) 3
院前日10 澤山淑子 3	大22日 植田さつき 3	大日9 富田栄子(國米) 6	短日30 濱崎典子(明知) 3	短日16 樽本久美(藤原) 3
院前日11 今泉紀恵(光安) 9	大22日 石田高峰(貝塚) 3	大日9 岡迫秀世(藤屋) 9	短コ2日 中村容子 3	短英17 植木明子(岡村) 3
院前日12 内本浩子 3	大22日 山田智子(北川) 3	大英9高27 西嶋俊香(畔地) 3	短コ3日 高取萬智子 3	短英17 山口立子 3
院前日15 久保田智榮子(今井) 3	大22日 清川美恵子(工藤) 3	大英9 栗山百合子(加来) 3	短コ4日 大澤宣子(高橋) 3	短日17 北原典子(江頭) 6
院前日22 古賀しのぶ 3	大22日 秋山和代(酒見) 3	大英9高27 池田由美子(原) 3	大1日高19 梅尾澄枝(秋本) 6	短日17 谷崎眞子(小林) 3
院前日25 青山めぐみ 3	大22日 山下和子(平川) 3	大10日 若山邦美(榎) 3	大1日高19 原田清子(大賀) 3	短日17 菊池 都(重光) 3
院前日26 宮田京子 3	大22日 田中純子(松田) 3	大10日 山本美代子(田村) 30	大1日高19 片山宣子(清川) 20	短日17 田代久仁子 3
院前日28 川口 香(那須) 3	大23日 波多野満寿美(藤原) 3	大11英 高田美智子(吉良) 3	大1日 中村百合子(中村) 3	短日17 福嶋久子(宝珠山) 3
会友 藤田尚子(上杉) 3	大23英高41 久保江厚子(山本) 3	大11英 関 純子(佐藤) 3	大1日 森本美佐子(西崎) 3	短英18 大庭由起子 3
会友 芝 保子(山上) 3	大23語高41 野口 紋(田中) 3	大12英高30 河合津奈恵(河合) 3	大1英高18 宝辺静子(久保) 3	短日18高34 志水優佳(折井) 3
	大24日 田尻誠子(大野) 3	大12英 短英15 林田恭子 3	大1英高19 西嶋久美子(丸元) 3	短英19 渡辺智美 3
	大24英 富田志保 3	大13日 三浦美香子(武石) 3	大2日 末宗正子(浜野) 3	短英20 井上悦子 3
	大25日高43 永野実芳 3	大13日 宮田史子(原) 3	大2日 井上知子(林) 3	短英20 河瀬美子(坂本) 3
	大25英 中尾香代子 6	大13英高31 滝本あい子 6	大2日高20 松尾俊子(和田) 6	短日22 古谷かおり 3
	大26英 宇都宮英里子(坂本) 3	大14日 諫山貴子(青柳) 3	大2英 石田邦子(神西) 6	短英23 藤井千登世 3
	大27日 浜田麻紀 3	大14日 紺屋はるみ(徳永) 9	大2英 向野泰子(田島) 3	短日24 豊久美由紀(鹿島) 3
	大28日 扇野 恵(久木元) 3	大15英 田中文代(寺田) 3	大2英高20 松井節子(山下) 3	短日24 中川清子(中野) 3
	大39英 久米祥子(濱野) 3	大16日高34 野見山百葉(末松) 3	大3英 内藤みゆき(白附) 3	短日24高40 浅井佳江(三毛) 3
	大40日 梅田順子 3	大16日 植月明美(山下) 3	大3英 松井孝子 3	短日24 宮下ひろみ 3
	大41日高59 野村美貴子 3	大16日 小川滋子(山本) 3	大3英 山本洋子(湊) 3	短英25 吉山美津子 3
	大42日 伊豆一郎* 3	大16日 土河美枝子(吉本) 10	大4日高2英 志保みはる 3	短日25 塚本弘美(田中) 3
	大43日 岩田英子 30	大16英 飯島貴子(田尻) 3	大4英 御厨ひろみ(長谷川) 3	短日25 本田美香(田原) 3
	大44日 鈴木沙友里 3	大17日高35 酒井浩子(中村) 3	大6日 平川典子(神峯) 3	短英26 徳田祥子(村田) 3

卒業生総数	
梅ヶ崎	150
光城	80
梅光(旧制)	2,413
高・中	13,503
短大	13,996
大学・大学院	9,483
計	39,625
2018.3.31 現在	

来年度同窓会総会おしらせ [2019年度]

日時 2019年 5月11日(土)
受付 10:00 総会 10:30~12:30 懇親会 13:00~15:00

場所 シーモールパレス(下関駅直結シーモール2F)

プログラム

- I. 総会
2018年度報告・審議
- II. 懇親会
中高ミュージカル部OGによるパフォーマンス

会費 総会・懇親会 3,500円 総会のみ 500円(当日支払)

*総会・懇親会にご出席の方は、会誌に同封の振込用紙(振込料なし)でお申し込み下さい。総会のみご出席の方は、当日受付にて会費をお支払い下さい。振込用紙紛失の場合は[下関13100番]の口座に振り込んで下さい(振込料が発生します)。

当番幹事 高42・短日26・短英27・大日英語24

卒業時お願いした幹事さんのお名前は下記のとおりです。

2019年度の準備をしたいので、幹事会にご参集ください。

- 高42 渡部 麻里子・高村 典子・今道 裕美・井上 理恵・蜂谷 直美・森原 典子・萩原 和美・高山 靖子・坂田 尚子・中尾 博美
- 短日26 田中 昌美・斉藤 裕子・蜂谷 直美・田村 幸恵
- 短英27 谷垣 あゆみ・玉野 玲子・池本 みさお・三輪 晴美・井塚 菜実
- 大日24 植木 博美・楢山 敦子
- 大英24 百合野 充子
- 大語24 平賀 裕子・森田 史子

第一回 総会準備幹事会 10月16日(火) 14:00~ (於) 同窓会室(大学キャンパス内)

木暮実千代生誕百年記念事業公演

創作劇「オトン」鎮魂歌をうたった大スター木暮実千代

開催日時 平成30年9月30日(日) 開演:14:00~16:00 開場:13:30
場所 下関市生涯学習プラザ「海のホール」



連絡先 梅光学院同窓会 TEL・FAX 083-227-1111